第16回日本リーグ

男子 大同特殊鋼に7年ぶりの栄冠
女子 大崎電気が5連覇を飾る

■第16回日本リーグ成績表(前期：1991年10月26日～12月1日、後期：1992年1月11日～2月23日)

〔1部男子〕	湧永	日新	大同	本田	大崎	中村	三陽	三景	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
湧永製薬		●25 ●16	●22 ●26	●22 ●19	○24 △21	○30 △25	○26 △21	○36 ○30	5	3	6	13	343	330	13	4
日新製鋼	○29 ○22		●19 ●25	○17 ●22	△26 ○20	○22 ○24	○28 ○31	○28 ○31	10	1	3	21	344	290	54	2
大同特殊鋼	○29 ○28	○24 ○26		●21 ○23	○29 ○26	○32 ○29	○26 ○28	○29 ○36	13	0	1	26	386	317	69	1
本田技研鈴鹿	○24 ○21	●15 ○26	○22 ●18		●19 ○27	○24 ●21	○29 ○19	○31 ○31	10	0	4	20	327	284	43	3
大崎電気	●22 △21	△26 ●15	●26 ●23	○22 ●16		○25 ●20	○29 ●29	○25 ○33	5	2	7	12	332	320	12	5
中村荷役運輸	●28 △25	●20 ●19	●24 ●19	●20 ○24	●20 ○23		●19 ○25	○31 ○34	5	1	8	11	331	336	-5	6
三陽商会	●24 △21	●22 ●21	●24 ●27	●22 ●14	●19 ○31	○29 ●16		○31 ○26	4	1	9	9	327	344	-17	7
三景	●20 ●16	●18 ●17	●18 ●24	●24 ●18	●20 ●15	●17 ●22	●16 ●18		0	0	14	0	263	432	-169	8

〔1部女子〕	大崎	大和	オムロン	北国	シャトレ	日立	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
大崎電気		○35 ○32	○20 ●27	●27 ○30	○21 ○25	○32 ○29	8	0	2	16	278	225	53	1
大和銀行	●21 ●20		●12 ●17	△25 ●20	●13 ●17	○26 ●21	1	1	8	3	192	280	-88	5
オムロン	●15 ○29	○26 ○30		○30 ○27	△24 ●16	○28 ○25	7	1	2	15	250	187	63	2
北国銀行	○28 ●26	△25 ○36	●16 ●16		○19 ○31	○28 ○35	6	1	3	13	260	250	10	3
シャトレーゼ	●17 ●20	○28 ○22	△24 ○19	●13 ●25		○22 ○22	5	1	4	11	212	200	12	4
日立栃木	●23 ●26	●22 ○24	●19 ●17	●21 ●32	●21 ●13		1	0	9	2	218	268	-50	6

〔2部男子〕	トヨ自	本田熊本	電装	竹芝	大ガス	トヨ車	豊田織機	日鉄	勝数	分数	敗点	勝点	総得点	総失点	差	順位
トヨタ自動車		△24 ○29	○33 ○26	○35 ○27	○26 △24	○29 ○32	○31 ○34	○34 ○31	12	2	0	26	415	301	114	1
本田技研熊本	△24 ●17		●24 ○27	△21 ○37	○28 ○36	○33 ○19	○28 ○25	○40 ○28	10	2	2	22	387	295	92	2
日本電装	●22 ●15	○28 ●26		○28 ●19	○28 ○24	●20 ○32	○22 ○27	○34 ○29	9	0	5	18	354	332	22	3
竹芝精巧	●25 ●24	△21 ●20	●26 ○29		○31 ○30	●21 ●25	●23 ○29	●25 ○34	5	1	8	11	363	364	-2	5
大阪ガス	●24 △24	●17 ●22	●20 ●20	●28 ●22		●21 ○23	○25 △25	○33 ●21	3	2	9	8	325	365	-40	6
トヨタ車体	●22 ●21	●21 ●17	○22 ●21	○25 ○27	○31 ●22		○25 ●20	○29 ○35	7	0	7	14	338	345	-7	4
豊田自動織機	●21 ●20	●17 ●15	●21 ●23	○24 ●27	●20 △25	●21 ○22		●25 ○30	3	1	10	7	311	368	-57	7
日鉄建材工業	●22 ●20	●19 ●19	●18 ●22	○27 ●17	●17 ○23	●23 ●24	○28 ●26		3	0	11	6	305	428	-123	8

〔2部女子〕	プラザー	ジャスコ	ソニー	JUKI	ムネカタ	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
ブラザー工業		●16 △19	●12 ○18	○24 ○23	○22 ○23	5	1	2	11	157	140	17	2
ジャスコ	○29 △19		○37 △25	○25 ○29	○34 ○32	6	2	0	14	230	133	97	1
ソニー国分	○14 ●15	●22 △25		○17 ○19	○30 ○21	5	1	2	11	163	151	12	3
JUKI	●16 ●19	●7 ●17	●13 ●17		○19 ○31	2	0	6	4	139	164	-25	4
ムネカタ	●13 ●15	●14 ●13	●15 ●14	●15 ●12		0	0	8	0	111	212	-101	5

男子1部

第1週第1日（1月11日）
相模原市総合体育館

日新製鋼 31〔15－10 16－11〕21 三陽商会

〔戦評〕後期、逆転Vに向けて好スタートを切りたい日新製鋼と上位浮上のきっかけをつかみたい三陽商会の一戦は、立ち上がりから完全な日新ペース。GK宇田川の好キープから次々と得点を重ね終始リード。

後半に入っても波に乗れない三陽に対し、次々と得点を重ねる日新が快勝。逆転Vに向けて弾みをつけた試合であった。

〔三陽〕	得		〔日新〕	得
藤原	0	GK	篠原	0
高橋	0		宇田川	0
濱川	0	FP	堀田	1
飯嶋	5		武田	5
小河原	3		西山	3
大坪	1		甲斐	2
渡辺	2		林	0
佐藤	0		木村	8
濱田	3		池田	1
田中	6		坂口	3
Fio	0		野中	5
近藤	1		源内	3
		〔審・川口 兼田〕		
(0)	21	PT	31	(3)

第1週第2日（1月12日）
尾花沢市文化体育館

中村荷役運輸 24〔10－8 14－13〕21 本田技研鈴鹿

〔戦評〕前半は一進一退の攻防をくり返し、スピードを競いあってきたが、中村が前半終了間際にチャンスをつかみ2点をリードした。

後半は本田も調子を上げ、9分過ぎには12－12の同点に追いつきいったんは13－12と逆転したが、中村・朴が頑張り、5点を連取して再逆転、終盤粘る本田をふり切った。

〔本田〕	得		〔中村〕	得
高木	0	GK	石井	0
橋本	0		井上	0
丹羽	2	FP	田口	5
藤井	0		大沼	0
立木	4		朴	5
福村	0		八尾	2
内藤	5		元島	3
大塚	1		高木	2
梅基	1		岩戸	0
田口	0		呉	6
平松	3		栗原	0
山村	5		田中	1
		〔審・岡本 清水〕		
(2)	21	PT	24	(2)

湧永製薬 30〔11－9 19－7〕16 三景

〔戦評〕後期に対する湧永の闘志は、試合開始時からも高まっていた。玉村も出場、湧永が先行し着実に加点していった。一方、三景も善戦、前半を11－9と2点差で食い下がる。後半、地力に勝る湧永が全員ムラなく得点、5連続得点などで一方的にリードを広げて三景を大差で破った。

〔三景〕	得		〔湧永〕	得
中村	0	GK	井藤	0
石井	0		多田	0
斉藤	3	FP	酒巻	4
高橋	1		玉村	2
金井	5		堀田	2
清田	4		新井	2
小金山	0		長沢	8
高橋	0		荷川取	3
小野	0		鎌塚	4
吉野	0		奥田	0
福士	3		松本	1
			田中	4
		〔審・大河原 池田〕		
(2)	16	PT	30	(2)

第1週第2日（1月12日）
大分県総合体育館

大同特殊鋼 26〔12－10 14－13〕23 大崎電気

〔戦評〕両チームとも軽快な動きでスピーディな試合展開となった。先取点は大同・末岡のディフェンスの間を抜くシュート。以後、大同は盧を中心にボールを回し、朝生のサイド、盧のステップで得点を重ねる。それに対し、大崎は大同の早いツメに苦しめられながらも、カットイン、宮下のミドルで対抗する。大同・佐藤の退場を機に、大同のシュートミスにも助けられ、大崎が一時同点に追いつく。しかし、大同も佐藤から盧へのスカイプレー、朝生のサイドシュートでリードし、前半を12－10と大同の2点リードで折り返す。

後半、互角の立ち上がりを見せながらも大崎・柏崎の退場、シュートミスからじわりじわりと大同が点差を広げ、一時6点差にまで開いた。終盤、大崎も必死に追い上げ、逆に大同がシュートミスを重ねる間に2点差にまで追い上げたが、大同もたて続けに速攻を決め結局3点差で大崎をふり切った。

〔大崎〕	得		〔大同〕	得
渡辺	0	GK	秋吉	0
矢内	0		林	0
大橋	1	FP	内藤	0
珍田	0		高村	5
武田	1		朝生	5
首藤	2		盧	6
魚住	9		名取	0
甲斐	0		林	2
山内	1		末岡	4
柏崎	0		佐藤	4
土屋	0		阿萬	0
宮下	9		宇多村	0
		〔審・浅井 家永〕		
(4)	23	PT	26	(0)

第2週第1日（1月19日）
市川市民体育館

湧永製薬 21〔11－8 10－13〕21 大崎電気

〔戦評〕15分ぐらいまで堅いディフェンスとGKの好守によりロースコアに抑えられ、20分に宮下のトリッキーなパスカットで大崎が同点に追いついたが、湧水はそこから4連続得点で前半を11－8とリードした。

後半、開始早々大崎は退場者を出し苦しくなると思われたが、そこから20分までディフェンスを堅め、速攻につなげて同点に追いついた。残り10分はお互いあるだけの力を出しきり一進一退の攻防が続き、ラスト30秒で大崎・魚住のシュートが決まり21－20で勝負あったかに見えたが、湧永も意地を見せてラスト10秒で新井のサイドが決まり21－21の同点で終了した。

〔湧永〕	得		〔大崎〕	得
井藤	0	GK	渡辺	0
多田	0		矢内	0
酒巻	5	FP	大橋	1
河原	2		武田	1
玉村	1		首藤	5
堀田	3		魚住	6
新井	5		甲斐	1
長沢	0		菅田	0
荷川取	3		山内	0
鎌塚	1		柏崎	0
松本	0		土屋	6
田中	1		宮下	1
		〔審・小林 土屋〕		
(2)	21	PT	21	(5)

第2週第1日（1月19日）
神戸中央体育館

大同特殊鋼 23〔10－7 13－11〕18 本田技研鈴鹿

〔戦評〕前半、大同・林、盧らの活躍によりリードを広げるも中盤25分過ぎより連続4点で追いつくかに見えたが、10－7と大同の3点リードで折り返す。

後半、大同・林の立ち上がり連続3得点の活躍もあり、大崎はもう一歩追い切れずに試合を終えた。

〔本田〕	得		〔大同〕	得
高木	0	GK	秋吉	0
橋本	0		林	0
丹羽	0	FP	酒匂	0
藤井	1		内藤	0
立木	4		高村	2
福村	3		朝生	3
内藤	3		盧	6
大塚	1		林	7
梅基	1		末岡	3
田口	1		佐藤	2
平松	0		阿萬	0
山村	4		宇多村	0
		〔審・馬場 浜田〕		
(2)	18	PT	23	(6)

第3週第1日（1月21日）
東京体育館

日新製鋼 24〔15－8 9－11〕19 中村荷役運輸

〔戦評〕前半、日新・堀田が先制

するが、すぐに中村が2連取、一進一退の立ち上がりを見せる。しかし、中盤から日新GK宇田川の好守が目立ち、じりじりとリードを広げて15—8として前半を折り返す。

後半に入り、中村もGK井上の好守、呉を中心とした攻撃で追い上げを図るが、前半の点差が大きく、届かなかった。

〔中村〕

	選手	得
GK	石井	0
GK	井上	0
FP	田口	1
FP	朴	5
FP	八尾	1
FP	元島	0
FP	高木	4
FP	井戸	0
FP	呉	8
FP	田中	0
FP	栗原	0
FP	田中	0
PT	(3)	19

〔審・小林・土屋〕

〔日新〕

	選手	得
GK	谷	0
GK	宇田川	0
FP	堀田	4
FP	武田	2
FP	西山	2
FP	甲斐	2
FP	林	0
FP	木村	2
FP	池田	0
FP	坂口	4
FP	野中	5
FP	源内	3
PT	(1)	24

第3週第2日（1月22日）東京体育館

三陽商会26〔13—11、13—7〕18三景

〔戦評〕試合開始から、両チームともスピードとガッツあふれるプレーで一進一退の攻防をくり広げ場内を沸かせた。やや攻守でミスの多い三景に対し、三陽商会はPT、三景ディフェンスが4人になるパワープレーなどで一歩リードし前半は13—11と2点差で折り返した。

後半、疲れが見える三景ディフェンスに次々とシュートを放った三陽が着実に点差を広げ、26—18で逃げ切った。

〔三景〕

	選手	得
GK	中村	0
GK	石井	0
FP	斉藤	4
FP	高橋	3
FP	金井	8
FP	清田	0
FP	小金山	0
FP	高橋	0
FP	小野	0
FP	吉野	0
FP	近藤	0
FP	福士	3
PT	(3)	18

〔審・三辻・本田〕

〔三陽〕

	選手	得
GK	宇田川	0
GK	高橋	0
FP	濱川	1
FP	飯嶋	9
FP	小河原	2
FP	大坪	0
FP	渡辺	5
FP	佐藤	0
FP	濱田	3
FP	田中	6
FP	近藤	0
FP	桜井	0
PT	(4)	26

第3週第4日（1月26日）栃木市総合体育館

大同特殊鋼29〔16—12、13—7〕19中村荷役運輸

〔戦評〕両チームともに好スタートを切るも前半なかばに中村荷役に空白の時間があり、その間に大同・盧がかため打ちしてリードを広げ、13—7と6点をリードして前半を折り返す。

後半の立ち上がりも依然として大同ペースで、一気に7点を連取、勝負を決定づけた。8分以後は中村も互角の展開を見せたが、すでに点差が大きく広いており及ばなかった。

〔中村〕

	選手	得
GK	石井	0
GK	井上	0
FP	田口	4
FP	朴	2
FP	八尾	2
FP	元島	2
FP	高木	1
FP	岩戸	0
FP	呉	8
FP	田中	0
FP	栗原	0
FP	田中	0
PT	(3)	19

〔審・中山・大出〕

〔大同〕

	選手	得
GK	秋吉	0
GK	林	0
FP	内藤	1
FP	高村	3
FP	朝生	0
FP	盧	9
FP	名取	0
FP	林	5
FP	末岡	7
FP	佐藤	2
FP	阿萬	2
FP	宇田村	0
PT	(2)	29

第3週第1日（1月26日）山口県スポーツ文化センター

湧永製薬21〔12—8、9—13〕21三陽商会

〔戦評〕前半、三陽は速攻を中心に、湧永はセットを中心に得点をあげ、20分過ぎまで8—8と同点で進行していった。ここから三陽にオーバーステップやラインクロスなどのミスが重なり、12—8と湧永の4点リードで前半を終了した。

後半に入り、前半のスローペースとはかわり点の取り合いとなった。湧永の脚が止まり、ペースが落ち、この間に三陽は田中の速攻などで13分に逆転し、その後は一進一退の展開となった。終盤やや荒っぽいプレーが目立つようになったが、両チームとも決め手を欠き21—21で終了した。

〔三陽〕

	選手	得
GK	宇田川	0
GK	高橋	0
FP	濱川	0
FP	飯嶋	5
FP	小河原	4
FP	大坪	1
FP	渡辺	1
FP	佐藤	0
FP	濱田	2
FP	田中	8
FP	近藤	0
FP	桜井	0
PT	(2)	21

〔審・古富・赤池〕

〔湧永〕

	選手	得
GK	井藤	0
GK	多田	0
FP	酒巻	2
FP	河原	2
FP	堀田	10
FP	新井	4
FP	長沢	0
FP	荷川取	1
FP	鎌塚	0
FP	奥田	0
FP	松本	0
FP	田中	2
PT	(3)	21

第3週第4日（1月26日）松山コミュニティー体育館

日新製鋼31〔16—7、15—10〕17三景

〔戦評〕スロースタートから立ち上がりとなった。前半4分、日新・源内のゲットでようやく動き出した。着実に得点を重ねる日新に対し、三景は日新の固いディフェンスに阻まれ、シュートミスを連発、16—7で前半を終了。4

後半に入ってもペースはかわらず、一方的な点差で日新は三景をふり切り快勝。三景のミスに合わせるようにミスを連発する日新もいただけないゲーム展開であった。

〔三景〕

	選手	得
GK	中村	0
GK	石井	0
FP	斉藤	2
FP	高橋	4
FP	金井	4
FP	濱田	2
FP	小金山	0
FP	高橋	0
FP	小野	1
FP	吉野	0
FP	近藤	0
FP	福士	4
PT	(2)	17

〔審・不明〕

〔日新〕

	選手	得
GK	篠原	0
GK	宇田川	0
FP	堀田	2
FP	武田	2
FP	高木	3
FP	林	0
FP	木村	10
FP	池田	7
FP	坂口	1
FP	河崎	1
FP	野中	1
FP	源内	4
PT	(0)	31

本田技研鈴鹿27〔15—5、12—11〕16大崎電気

〔戦評〕立ち上がり、関根の速攻で先制した本田は、山村らの速攻で一気に主導権を握った。着々と加点する本田に対し、大崎はコンビネーションがかみ合わず、個人技の単発に終始し、前半で15—5と大きく水をあけられた。

後半に入っても本田のスピード攻撃はとどまることなくGK橋本の好キープと相まって粘る大崎を危げなく振り切った。

	得〔本田〕		〔大崎〕得	
GK	高木	0	渡辺	0
GK	橋本	0	矢内	0
FP	藤井	3	大橋	0
FP	立木	0	武田	0
FP	福村	3	首藤	4
FP	内藤	6	魚住	4
FP	大塚	1	甲斐	1
FP	梅基	2	菅田	1
FP	田口	1	山内	0
FP	平松	2	柏崎	0
FP	山村	9	土屋	3
FP	香西	0	宮下	3
PT	27	(1)	(1)	16

〔審・不明〕

第4週第1日（2月1日）国分市総合体育館

本田技研鈴鹿 19 〔7−6 / 12−8〕 14 三陽商会

〔戦評〕前半、本田は山村のサイドシュートで2−0と先行するが、その後は三陽GK高橋の好守で点が取れず、その間三陽は飯嶋のポストで着実に加点し、前半7−6と本田が1点をリード。

後半、三陽は5分に渡辺がポストで決め10−9。その後7分に飯嶋のペナルティで11−10とするも約10分間無得点が続く。本田はコントロールタワー田口を中心に山村、小清水のサイドコンビで加点し、GK橋本の活躍が光った。三陽も24分には15−14と迫るが、この後は緊張が切れ、本田の速攻を許してしまった。

	得〔本田〕		〔三陽〕得	
GK	高木	0	宇田川	0
GK	橋本	0	高橋	0
FP	丹羽	0	濱川	0
FP	藤井	1	飯嶋	5
FP	立木	1	小河原	2
FP	福村	2	大坪	1
FP	内藤	3	渡辺	4
FP	大塚	0	佐藤	0
FP	梅基	2	濱田	1
FP	田口	0	田中	1
FP	平松	5	Fio	0
FP	山村	5	近藤	0
PT	19	(2)	(3)	14

〔審・岩本 板倉〕

第4週第2日（2月2日）大阪府立体育館

大同特殊鋼 36 〔17−14 / 19−10〕 24 三景

〔戦評〕三景はチーム一丸となり攻守に活発な動きを見せ、20分経過まで13−10と3点差で食い下がる。一方大同は少し固さが見え、日頃のペースがつかめない。

後半に入ってペースは変わらず三景は3点から4点の差で追いすがる。終盤、大同は盧の連続ゴールで引き離し力の差を見せつけたが、全体に大同の力強さが見えなかった。

	得〔大同〕		〔三景〕得	
GK	秋吉	0	中村	0
GK	林	0	石井	0
FP	酒匂	2	斉藤	9
FP	内藤	1	高橋	4
FP	高村	4	金井	1
FP	盧	11	清田	3
FP	名取	0	小金山	0
FP	林	7	高橋	0
FP	末岡	8	小野	0
FP	佐藤	2	吉野	0
FP	阿萬	1	近藤	2
FP	宇多村	0	福士	5
PT	36	(5)	(0)	24

〔審・浅井 家永〕

日新製鋼 20 〔12−5 / 8−10〕 15 大崎電気

〔戦評〕日新としては前期分けているだけにVを狙うためには落とせないゲームである。日新・武田の速攻、大崎・首藤のミドルと打ち合いとなるが、双方ともよく守り、15分経過で5−3と日新2点リードという状況。しかし、日新も少しずつペースをつかみ、4連続ゴールなどでリードを広げ、12−5として前半を終える。

後半に入って、大崎も互角の展開を見せたが、前半の点差が大きく追い上げることができなかった。

	得〔日新〕		〔大崎〕得	
GK	篠原	0	渡辺	0
GK	宇田川	0	矢内	0
FP	堀田	3	大橋	1
FP	武田	4	珍田	0
FP	西山	2	武田	0
FP	甲斐	4	首藤	5
FP	林	1	魚住	2
FP	木村	0	甲斐	1
FP	池田	0	菅田	2
FP	坂口	4	藤井	4
FP	野中	1	柏崎	0
FP	源内	1	宮下	0
PT	20	(3)	(3)	15

〔審・馬場 浜田〕

第4週第2日（2月2日）広島市東区スポーツセンター

湧永製薬 25 〔11−10 / 14−15〕 25 中村荷役運輸

〔戦評〕ゲーム開始から両チームの意気込みが強く、少々荒っぽいスタートとなったが、一進一退をくり返し、1点を争う好ゲームとなった。中村は呉を軸にポスト、サイドと柔軟な攻めをくり広げた。

一方、湧永は長沢のミドルを中心にベテランのサイド、ポストとの連携も良く、最後まで激しいプレーを続けた。

惜しまれるのは、中村のPTの失敗が前半に2本あったことだ。

	得〔湧永〕		〔中村〕得	
GK	井藤	0	石井	0
GK	多田	0	井上	0
FP	酒巻	2	田口	4
FP	河原	2	朴	6
FP	堀田	2	雨宮	0
FP	新井	0	八尾	2
FP	長沢	10	元島	0
FP	荷川取	1	高木	2
FP	鎌塚	1	岩戸	0
FP	奥田	4	呉	11
FP	松本	0	栗原	0
FP	田中	3	田中	0
PT	25	(3)	(5)	25

〔審・竹村 坂井〕

第5週第1日（2月15日）鈴鹿市立体育館

本田技研鈴鹿 31 〔12−5 / 19−13〕 18 三景

〔戦評〕前半、開始10分まで三景・小野の先取点より連続加点するが、固くなっていた本田もポスト攻撃、速攻などでじわじわと反撃、14分に同点とした後は堅い防御と

	得〔本田〕		〔三景〕得	
GK	高木	0	中村	0
GK	橋本	0	石井	0
FP	弥吉	3	斉藤	1
FP	丹羽	3	高橋	2
FP	藤井	4	金井	2
FP	立木	2	清田	4
FP	福村	9	小金山	0
FP	内藤	3	高橋	0
FP	田口	0	小野	6
FP	平松	1	吉野	0
FP	山村	5	近藤	0
FP	香西	1	福士	3
PT.	31	(2)	(3)	18

〔審・小山 佐路〕

GK橋本の好キーピングにて中盤以降ぴたりと三景の足が止まり、12―5と本田が7点をリードして前半を終了。

後半に入り、三景も懸命に追い上げるが、本田は多彩な攻撃で着着と加点、一方的にリードを広げて大差で勝利を飾った。

中村荷役運輸 23〔11―10 12―10〕20 大崎電気

〔戦評〕前半立ち上がりから両チームとも動きにスピードはあるが正確さに欠け、一進一退の攻防となる。大崎は魚住のロングで中盤までリードするが、中村は呉のミドル、速攻で盛り返し、中村の1点リードで折り返す。

後半、朴のポストで先行するが、呉の退場の間に大崎は追いつき接戦となる。残り9分に中村が4点リードでほぼ勝利をつかんだかと思われたが、中村・雨宮が退場となり、その間に大崎は1点差までつめ寄る。しかし、田口、呉のシュートで再び突き放した中村が23―20で勝利を収めた。

得	〔中村〕		〔大崎〕	得
0	石井	GK	渡辺	0
0	井上	GK	矢内	0
2	田口	FP	大橋	0
1	朴	FP	武田	2
4	雨宮	FP	首藤	4
0	八尾	FP	魚住	5
0	元島	FP	甲斐	0
5	高木	FP	菅田	2
0	岩戸	FP	藤井	3
11	呉	FP	山内	0
0	栗原	FP	柏崎	0
0	田中	FP	宮下	4
23	(2)	PT	(2)	20

〔審・夏目・松ケ谷〕

第5週第2日（2月16日）富岡高校体育館

大同特殊鋼 28〔9―17 19―10〕27 三陽商会

〔戦評〕7年ぶりの優勝に向けてひた走る大同が大苦戦を強いられた。

前半立ち上がり、5分過ぎまでに三陽が6点を連取、一気に優位に立つ。その後も調子の出ない大同に対し三陽は着々と加点、15分過ぎには10―2と大量リードを奪う。終盤、大同も末岡などのがんばりで追い上げるが、17―9と8点差で前半を終了。

後半に入ると、大同はエース盧のシュートで着々と加点、じりじりと追い上げを図る。15分過ぎに23―19と4点差。22分過ぎに24―24の同点にようやく追いつく。しかし、三陽も粘りを見せてその後も一進一退の展開、残り1分、27―27の同点から大同・高村が決勝シュートを決めて辛くも勝利を握った。

得	〔大同〕		〔三陽〕	得
0	秋吉	GK	宇田川	0
0	林	GK	高橋	0
0	内藤	FP	濱川	0
7	高村	FP	飯嶋	8
2	朝生	FP	小河原	5
6	盧	FP	大坪	3
0	名取	FP	渡辺	4
2	林	FP	佐藤	0
7	末岡	FP	濱田	2
3	佐藤	FP	田中	5
1	阿萬	FP	近藤	0
0	宇多村	FP	湯井	0
28	(3)	PT	(3)	27

〔審・小林・土屋〕

第5週第2日（2月16日）熊本県立体育館

日新製鋼 22〔12―8 10―8〕16 湧永製薬

〔戦評〕開始早々、日新が坂口のロングシュートで先行するが、湧永も河原のカットインですぐに追いつく。10分まで、日新・甲斐のサイドシュートが連続3本決まり4―1と優位に立つ。20分までは速攻、ロングと日新が得点を重ねるが、湧永もポストシュートで連取し2点差。前半残り10分でディフェンスから速攻とリズムをつくる日新が、4点差に広げて前半を終了。

後半、湧永が奥田のシュートが決まりリズムをつかむかに見えたが、日新はサイド、ロング、ポストと着実に加点していった。一方湧永は、残り10分で速攻からみの得点を重ねたが、追いつくまでにはいかなかった。

得	〔日新〕		〔湧永〕	得
0	篠原	GK	井藤	0
0	宇田川	GK	多田	0
1	堀田	FP	酒巻	2
4	武田	FP	河原	4
3	西山	FP	玉村	2
5	甲斐	FP	長沢	0
0	林	FP	荷川取	1
0	木村	FP	鎌塚	4
0	池田	FP	奥田	2
3	坂口	FP	松本	0
1	野中	FP	田中	1
5	源内	FP	杉山	0
22	(1)	PT	(1)	16

〔審・高橋・森山〕

第6週第1日（2月22日）批把島体育館

大同特殊鋼 26〔16―11 10―14〕25 日新製鋼

〔戦評〕この試合で7年ぶり8回目の優勝を決めたい大同特殊鋼は開始早々、盧のすばらしいロングシュートで先制、その後も佐藤らで絶好のスタートを切る。日新は大同の高く厚い壁を攻めあぐみ、ペースをつかめないまま前半を終了。

後半に入り、日新は新人コンビの源内、林の活躍で猛反撃、残り2分には1点差まで詰め寄るが、直後に大同・末岡の意表をつくランニングシュートが決まり勝利を決定づけた。日新としては、立ち上がりの連続失点が悔やまれた。

得	〔大同〕		〔日新〕	得
0	秋吉	GK	篠原	0
0	林	GK	宇田川	0
0	酒匂	FP	堀田	4
3	内藤	FP	武田	5
3	高村	FP	西山	3
2	朝生	FP	甲斐	3
5	盧	FP	林	5
6	林	FP	木村	0
2	末岡	FP	池田	0
5	佐藤	FP	坂口	0
0	阿萬	FP	野中	0
0	宇多村	FP	源内	5
26	(2)	PT	(5)	25

〔審・日比・川合〕

第6週第1日（2月22日）京都府立体育館

本田技研鈴鹿 21〔12―10 9―9〕19 湧永製薬

〔戦評〕前半、両チームGKの好



守により10分間で2－2とロースコアーの立ち上がりであった。その後も単発的な得点で一進一退の攻防をくり広げ、本田の2点リードで前半を折り返した。

後半に入り、本田は福村のミドルシュートやGK橋本の好守からの速攻などで得点を重ね、5点をリードする。しかし、15分過ぎより本田はシュートミスが増え、湧永の速攻が出はじめた。終了間際に湧永にPT、速攻と同点に追いつくチャンスが再三訪れたが、本田GK橋本の好守に阻まれ、結局本田が前半のリードを守って逃げ切った。

得	〔湧永〕		〔本田〕	得
0	井藤	GK	高木	0
0	多田	GK	橋本	0
5	酒巻	FP	弥吉	0
5	河原	FP	丹羽	2
1	玉村	FP	藤井	1
2	堀田	FP	立木	0
0	長沢	FP	福村	4
2	鎌塚	FP	内藤	2
0	奥田	FP	梅基	0
1	松本	FP	田口	1
3	田中	FP	平松	4
0	杉山	FP	山村	7
19	(1)	PT	(2)	21

〔審・小山・佐路〕

第6週第1日（2月22日）
東京体育館

三陽商会 31 （14－16、17－13） 29 大崎電気

〔戦評〕前半立ち上がりより両チームのスピーディな攻守で見応えのある試合となった。中盤、大崎が藤井のサイド、速攻で一時ペースをつかみかけたが、三陽も田中、飯嶋らで追い上げ、前半を2点差で折り返した。

後半に入り、要所に両チームの好守を織り込みながら10分過ぎに三陽が同点に追いついた。一度は大崎が突き放したが、三陽の足が動きだした。ディフェンスからの相手のパスカットなどから速攻をくり出し逆転、そのまま逃げ切った。

得	〔大崎〕		〔三陽〕	得
0	工藤	GK	藤原	0
0	矢内	GK	高橋	0
4	大橋	FP	濱川	0
0	武田	FP	飯嶋	2
5	首藤	FP	小河原	3
8	魚住	FP	大坪	6
4	甲斐	FP	渡辺	7
0	菅田	FP	佐藤	0
6	藤井	FP	濱田	3
0	山内	FP	田中	7
0	柏崎	FP	ジュセッペ	0
2	宮下	FP	近藤	0
29	(3)	PT	(4)	31

〔審・岡本・清水〕

中村荷役運輸 34 （19－10、15－12） 22 三景

〔戦評〕立ち上がり早々、中村が5点連続得点し、その後もポスト、カットイン、ロングなどの幅広いオフェンスで得点を加えた。一方、三景も清田の得点を中心に反撃するも中村ディフェンスの高い壁に防がれ、得点が伸びず前半を終った。

後半に入り、三景も斉藤らのミドルが決まりだし、20－24まで追い上げたものの中村・呉の連続得点により突き放され、結局34－22で中村が勝利を飾った。

得	〔三景〕		〔中村〕	得
0	中村	GK	石井	0
0	石井	GK	井上	0
4	斉藤	FP	田口	5
6	高橋	FP	朴	3
2	金井	FP	雨宮	2
5	清田	FP	八尾	6
0	小金山	FP	元島	2
2	高橋	FP	高木	2
1	小野	FP	岩戸	1
0	吉野	FP	呉	12
0	近藤	FP	栗原	0
2	福士	FP	田中	1
22	(0)	PT	(3)	34

〔審・川口・兼田〕

第6週第2日（2月23日）
静岡中央体育館

本田技研鈴鹿 26 （11－11、15－11） 22 日新製鋼

〔戦評〕前日の試合で優勝を逃した日新は、立ち上がり攻めに精彩を欠き、なかなか得点があげられない。一方本田は開始2分、梅基が先制、福村、藤井、内藤と得点を重ね、立ち上がり10分まで4－0と優位に立った。その後日新はPT、堀田、武田の活躍で反撃、GKの好守に阻まれながらも前半11－11の同点として折り返した。

後半に入り、本田は速攻、日新はセットからのずらしが決まり、追いつ追われつの展開となった。本田は失格者2名を出しながらも

得	〔日新〕		〔本田〕	得
0	谷	GK	高木	0
0	宇田川	GK	橋本	0
3	堀田	FP	弥吉	0
5	武田	FP	丹羽	4
1	西山	FP	藤井	5
2	高木	FP	立木	2
4	甲斐	FP	福村	3
3	林	FP	内藤	5
0	木村	FP	梅基	5
1	坂口	FP	田口	0
0	野中	FP	平松	2
3	源内	FP	山村	0
22	(5)	PT	(2)	26

〔審・杉山・若田〕

相手シュートミスに乗じた速攻の手をゆるめず、梅基、内藤などの活躍で日新を26－22と突き放した。

大崎電気 33（17－9、16－6）15 三景

〔戦評〕大崎は立ち上がりから積極的に攻め、魚住のミドルシュート、速攻からの武田のシュートで加点、優位に試合を進めた。三景も金井の巧みなサイドシュート、速攻で得点を重ねるが、大崎・宮下が豪快なミドルシュートを立て続けに決め、三景を圧倒した。

後半に入っても大崎が着々と加点し、試合を一方的なものとした。攻め手がなくなった三景は、戦意も薄れ、結局15－33と大敗した。

〔三景〕	得		〔大崎〕	得
中村	0	GK	渡辺	0
石井	0	GK	矢内	0
斉藤	2	FP	大橋	1
高橋	3	FP	武田	4
金井	5	FP	首藤	3
清田	2	FP	中田	4
小金山	0	FP	魚住	5
高橋	2	FP	甲斐	2
小野	1	FP	菅田	2
吉野	0	FP	藤井	1
近藤	0	FP	柏崎	1
福士	0	FP	宮下	10
(1)	15	PT	(3)	33

審・細沢、清水

第6週第2日（2月23日）
東京体育館

中村荷役運輸 25（11－4、14－12）16 三陽商会

〔戦評〕中村は高木のサイドからの回り込みミドルシュート、田口の左フローターからのミドルシュートで2点先行する。三陽も田中のロング、大坪のサイドシュートで追いつく。三陽のミスからの速攻、朴のアンダーシュートなどで21分には8－4と中村がリードを広げる。三陽は前日の大崎戦の疲れからか動きに精彩がなく、前半は11－4と中村のリードで終る。

後半に入ると、三陽は呉をマンツーマンするディフェンスに切替えたが、中村は朴のポストシュート、インターセプトで得点を重ねる。三陽は飯嶋の活躍で踏張るが薄くなったディフェンスをフェイントで崩れ、11分には16－6と離される。三陽は飯嶋、田中が奮闘するが差は縮まらず、結局25－16で中村が勝利を収めた。

〔三景〕	得		〔中村〕	得
宇田川	0	GK	石井	0
高橋	0	GK	井上	0
濱川	1	FP	田口	6
飯嶋	4	FP	朴	6
小河原	1	FP	雨宮	5
大坪	1	FP	八尾	1
渡辺	5	FP	元島	1
佐藤	0	FP	高木	1
濱田	0	FP	岩戸	2
田中	4	FP	呉	3
近藤	0	FP	栗原	0
湯井	0	FP	田中	0
(3)	16	PT	(2)	25

審・浜田、小笠原

大同特殊鋼 28（14－3、14－3）26 湧永製薬

〔戦評〕湧永が元気でスタートし大同が追いかける展開となる。12分で6－4と湧永のリード。大同はディフェンスを引き気味にし、湧永のミスに乗じて速攻を出す。しかし、16分に朝生、19分に盧の退場で差を縮められない。23分、高村のポストシュート、末岡のミドルシュートで1点差とし、25分に林の速攻で追いつき、阿萬の速攻で逆転する。結局14－13と大同が1点をリードして折り返す。

後半に入っても一進一退の展開が続いたが、13分、湧永・堀田の退場の間、大同は末岡のPT、速攻で3点差とする。湧永も粘りを見せたが一歩及ばなかった。

〔湧永〕	得		〔大同〕	得
井藤	0	GK	秋吉	0
多田	0	GK	林	0
酒巻	5	FP	内藤	0
河原	3	FP	高村	5
玉村	3	FP	朝生	1
堀田	3	FP	盧	3
長沢	8	FP	名取	0
鎌塚	2	FP	林	3
奥田	0	FP	末岡	13
松本	0	FP	佐藤	1
田中	2	FP	阿萬	2
杉山	0	FP	宇多村	0
(1)	26	PT	(5)	28

審・後藤、島田

女子1部

第1週第2日（1月12日）
尾花沢市文化体育館

大崎電気 30（16－15、14－11）26 北国銀行

〔戦評〕前半は北国銀行のスピードと大崎電気の尹選手の大砲を中心とする争いとなり、1点を競り合う試合が続いた。最後に大崎が1点をリードし前半を終了した。

後半は大崎に金選手も加わり、北国のスキをついて着実に加点、そのままふり切った。

〔北国〕	得		〔大崎〕	得
木戸	0	GK	南雲	0
古沢	0	GK	宗片	0
上田	0	FP	藤井	4
矢野	0	FP	前川	2
西川	0	FP	梅原	1
松下	7	FP	江口	5
松山	1	FP	鷲宮	0
谷本	3	FP	野田	2
森	5	FP	金	2
金	7	FP	尹	14
松田	3	FP	伝法谷	0
釣川	0	FP	酒井	0
(4)	26	PT	(0)	30

審・江成、島田

第1週第2日（1月12日）
大分県立総合体育館

オムロン 30（16－8、14－9）17 大和銀行

〔戦評〕前半、オムロンは石村のロングやフォーメーションからのサイドシュートで先制したのに対し大和は松田の速攻や西口のサイドシュートで盛り返し、10分には6－3でオムロンのリード。その後もオムロンのグデリューのロングやディフェンスをひきつけてか

〔大和〕	得		〔オム〕	得
上田	0	GK	川島	0
		GK	城下	0
小池	5	FP	中山	0
伊藤	2	FP	武津	0
白野	0	FP	古田	1
松田	2	FP	比嘉	5
又吉	2	FP	橋本	2
西口	2	FP	斉藤	1
山尾	0	FP	吉田	4
竹田	3	FP	石村	7
木口	1	FP	イエカ	9
橋本	0	FP	田中	1
(2)	17	PT	(3)	30

審・森山、高橋

らのポストへのパスで得点を重ね前半は16−8でオムロンがリード。
　後半もオムロンの優位は変わらず、相手ミスからの速攻やグデリューの高さを大和はつぶすことができなかった。オムロンの高さとスピードが目立った試合であった。

第1週第1日（1月11日）
相模原市総合体育館

シャトレーゼ 22 （10−8、12−5） 13 日立栃木

〔戦評〕立ち上がりからシャトレーゼはGK村山が好キーピングを見せ、技で主導権を把む。これに対し、日立も速攻で追いすがるが、2点差までしか詰められず、前半を終了。
　後半に入って、動きの悪くなった日立ディフェンスは、シャトレーゼにPTを次々と与え、シャトレーゼの山岸がこれをすべて着実に加点していった。シャトレーゼはGK村山を温存する余裕まで見せ、危げなく勝った。

得	〔シャト〕		〔日立〕	得
0	工　藤	GK	梅　津	0
0	村　山		坂　本	0
1	小　松	FP	吉　鶴	0
0	生　方		新　井	5
10	山　岸	審・	柳　田	0
4	松　沢		飯　塚	1
0	小　林		尾　苗	0
2	小野寺		市　来	1
0	千　葉		岡　田	0
3	小　俣		堤	1
1	鶴　田		小　柏	1
1	李		貫　田	4
22	(7)	PT	(0)	13

第2週第1日（1月19日）
市川市民体育館

北国銀行 31 （17−15、14−10） 25 シャトレーゼ

〔戦評〕北国銀行が速攻を中心に優位に立ち、左腕・松沢の5得点で食い下がるシャトレーゼを一時は17−9と大きくリードした。しかし、24分、28分と北国に退場者が出た間にシャトレーゼはペースをつかみ、小松、小俣らの6連続ゴールで追い上げ、17−15で前半を終わる。
　後半は、両チームとも退場者が出たり、PTが多くなったり激しい展開となったが、北国がディフェンスの早いチェックと速攻をはじめスピーディな試合運びで常にリードを保ち逃げ切った。

得	〔北国〕		〔シャト〕	得
0	木　戸	GK	工　藤	0
0	岩　井		村　山	0
1	上　田	FP	小　松	10
0	矢　野		生　方	0
0	西　川	審・田村・斉藤	山　岸	2
4	松　下		松　沢	6
0	松　山		小　林	0
13	谷　本		小野寺	3
2	森		千　葉	0
5	金		小　俣	4
3	松　田		鶴　田	0
3	釣　川		小　友	0
31	(4)	PT	(4)	25

第2週第1日（1月19日）
神戸中央体育館

日立栃木 24 （12−10、12−11） 21 大和銀行

〔戦評〕前半立ち上がりより大和・小池、日立・新井らの活躍により25分までまったくの一進一退で点差が開かなかったが、25分過ぎ日立・飯塚の連続得点で2点をリードして前半を終了。
　後半、日立は6連続得点を加えリードを広げる。大和も終盤、小池らのがんばりで追い上げるが、前半の点差を縮めることはできなかった。

得	〔日立〕		〔大和〕	得
0	梅　津	GK	増　見	0
0	坂　本		上　田	0
0	吉　鶴	FP	木　口	5
4	新　井		戸　高	0
2	柳　田	審・北山・大原	小　池	7
7	飯　塚		伊　藤	3
3	尾　苗		日　野	0
6	市　来		松　田	2
2	石　毛		又　吉	1
0	堤		西　口	0
0	小　柏		山　尾	1
0	貫　田		竹　田	2
24	(1)	PT	(2)	21

第3週第1日（1月21日）
東京体育館

大崎電気 29 （12−11、17−15） 26 日立栃木

〔戦評〕日本リーグ1000試合目ということで、それにふさわしい好ゲームとなった。
　前半のはじめは大崎・尹を欠き、本来の大崎のペースをつかめず、前半はシーソーゲームとなり12−11と大崎の1点リードで終了。
　後半に入って、4分から9分まで日立が連続6点を奪い逆転に成功。しかし、大崎も10分過ぎから反撃を開始、4連続得点でまたまた逆転。このような展開で23分までいったが、23分過ぎからは日立のミスにつけ込み大崎が加点、29−26で逃げ切った。

得	〔大崎〕		〔日立〕	得
0	南　雲	GK	梅　津	0
0	宗　片		坂　本	0
1	藤　井	FP	吉　鶴	4
2	前　川		柳　田	0
3	梅　原	審・川口・兼田	飯　塚	10
5	江　口		尾　苗	1
0	鷲　宮		市　来	2
7	野　口		岡　田	2
4	金		石　毛	2
5	尹		堤	2
2	伝法谷		小　柏	1
0	田　中		貫　田	2
29	(1)	PT	(1)	26

第3週第4日（1月26日）
栃木市総合体育館

北国銀行 35 （18−16、17−16） 32 日立栃木

〔戦評〕前半、北国は金のロングを中心に得点を重ね、一方、日立も市来を中心に攻撃を展開、互角の激しい点の取り合いとなり、18−16と北国が2点をリードして折り返す。
　後半に入っても両者譲らず、激

得	〔北国〕		〔日立〕	得
0	木　戸	GK	梅　津	0
0	古　澤		坂　本	0
3	上　田	FP	新　井	5
0	西　川		柳　田	3
9	松　下	審・清水・仲田	飯　塚	5
0	松　山		尾　苗	4
4	谷　本		市　来	6
4	森		岡　田	2
12	金		石　毛	1
3	松　田		堤	3
0	坂　井		小　柏	1
0	釣　川		貫　田	2
35	(3)	PT	(2)	32

しい点の取り合いが続いたが、ノーマークシュートの確率で上回った北国がゲームをものにした。

第3週第4日（1月26日）
山口県スポーツ文化センター

シャトレーゼ 22 〔12－8 10－9〕 17 大和銀行

〔戦評〕前半立ち上がり、シャトレーゼはPTを確実に決め、その後も次々に得点を重ね5－0とする。大和も7分に小池がサイドシュートを決めてからディフェンスの足がよく動くようになり、シャトレーゼのポストへのパスをよく守り、速攻やサイド攻撃で得点を重ね、12－8とシャトレーゼの4点リードで折り返す。

後半も前半と同様の展開で、ロングシュートやポスト攻撃中心のシャトレーゼ、速攻とサイド攻撃中心の大和銀行。大和は得点差を縮めるチャンスをことごとくシャトレーゼのGK村山の好守に阻まれ、追い上げがかなわなかった。



〔大和〕	得		〔シャト〕	得
増見	0	GK	工藤	0
上田	0	GK	村山	0
小池	6	FP	小松	3
伊藤	1	FP	生方	0
日野	0	FP	山岸	7
松田	0	FP	松沢	2
又吉	3	FP	小林	0
西口	1	FP	小野寺	1
山尾	5	FP	小俣	3
竹田	0	FP	鶴田	6
木口	0	FP	成田	0
吉村	1	FP	小友	0
(0)	17	PT	(4)	22

〔審・山根 岡村〕

第3週第4日（1月26日）
松山コミュニティー体育館

オムロン 29 〔14－17 15－10〕 27 大崎電気

〔戦評〕前半立ち上がりから大崎の4点連取でワンサイドゲームかと予感させるスタートであったが、固さの目立つオムロンも4分30秒PTを得、ようやく目ざめジリジリと差をつめる。大崎・尹にマンツーマンディフェンスをしいたオムロンが14－17と3点差まで追い上げ前半を終わる。

後半に入って一進一退の攻防が続いたが、10分20秒についにオムロンが20－20と同点に追いつく。その後主導権を握ったオムロンが終始優位に展開、粘る大崎をふり切って2点差で逃げ切った。

〔大崎〕	得		〔オム〕	得
南雲	0	GK	川島	0
宗片	0	GK	城下	0
藤井	1	FP	西村	3
前川	4	FP	中山	6
梅原	5	FP	武津	0
江口	1	FP	古田	0
鷲宮	0	FP	比嘉	10
野田	7	FP	橋本	0
金	2	FP	斉藤	0
尹	6	FP	吉田	1
伝法谷	1	FP	石村	3
酒井	0	FP	イエガ	6
(4)	27	PT	(6)	29

〔審・不明〕

第4週第2日（2月2日）
大阪府立体育館

北国銀行 36 〔15－12 21－8〕 20 大和銀行

〔戦評〕新旧交替の時期にあり低迷している大和と助っ人・金を中心として上位を狙う北国の対戦。出だし金を中心に得点に結びつける北国パターンでスタートするが、大和も速攻で追い、一進一退の好ゲームとなる。20分経過で8－7と北国の1点リード。終盤、金の速攻で連続ゴールを奪った北国が15－12と3点リードして前半を終了した。

後半に入ると、出だしから北国ペースの一方的な展開となり、ミスの多い大和に対し着実に加点した北国が大勝した。

〔大和〕	得		〔北国〕	得
増見	0	GK	木戸	0
上田	0	GK	岩井	0
戸高	0	FP	上田	4
小池	4	FP	矢野	1
伊藤	3	FP	西川	0
日野	3	FP	松下	5
松田	2	FP	松山	0
西口	0	FP	谷本	4
山尾	6	FP	森	6
竹田	1	FP	金	9
木口	1	FP	松田	7
橋本	0	FP	釣川	0
(1)	20	PT	(7)	36

〔審・中川 岡本〕

第4週第2日（2月2日）
広島市東区スポーツセンター

シャトレーゼ 19 〔10－7 9－9〕 16 オムロン

〔戦評〕出足は両チームとも動き

にスピーディさがなく、パスもつながらなかったが、シャトレーゼが途中からリズムをつかみ、小松のミドルを中心にサイド、ポストを使っての多彩な攻めでオムロンを圧倒した。
　オムロンの方は、最後までリズムをつかみきれないで単調な攻めをくり返した。

〔オム〕	得		〔シャト〕	得
川島	0	GK	工藤	0
城下	0	GK	村山	0
西村	2	FP	小松	5
中山	2	FP	生方	0
武津	0	FP	山岸	4
古田	3	FP	松沢	2
比嘉	3	FP	小林	0
橋本	1	FP	小野寺	1
斉藤	0	FP	小俣	1
吉田	0	FP	鶴田	5
石村	2	FP	成田	1
イエガ	3	FP	小友	0
(2)	16	PT	(3)	19

〔審・中本、渡辺〕

第5週第2日（2月16日）
富岡高校体育館

大崎電気25 〔13―8 / 12―12〕 20 シャトレーゼ

〔戦評〕前半立ち上がり、シャトレーゼ・小俣が先制。しかし、大崎も4分近くにようやくリズムをつかむと5点を連取して一気に逆転、その後一進一退の展開となる。シャトレーゼも14分に7―7の同点に追いつくが、終盤、大崎が一気に加点して13―8と5点をリードして前半を終了。
　後半開始早々、大崎・伝法谷が加点、以後も終始大崎が先手先手と加点してシャトレーゼとのリードを広げる。終盤に至ってシャトレーゼもようやく5点連取して追うが、すでに大きくリードを奪われており及ばなかった。

〔シャト〕	得		〔大崎〕	得
工藤	0	GK	南雲	0
村山	0	GK	宗片	0
小松	2	FP	藤井	0
生方	0	FP	前川	3
山岸	14	FP	梅原	2
松沢	0	FP	江口	1
野沢	1	FP	鷲宮	0
小野寺	0	FP	野田	6
小俣	1	FP	金	0
鶴田	2	FP	尹	10
成田	0	FP	伝法谷	3
小友	0	FP	酒井	0
(5)	20	PT	(2)	25

〔審・清水、後藤〕

第5週第2日（2月16日）
熊本県立体育館

オムロン25 〔14―8 / 11―9〕 17日立栃木

〔戦評〕前半10分までロースコアーの4―3でオムロン。15分から中山の速攻、グデリューのロングシュートで3点リード。さらに、GK川島の好守備やグデリューのサイドスローシュート、パスカットからのドリブルシュートなどでオムロンが6点をリードして前半を終了。
　後半に入ってもオムロンはグデリューのロング、中山のポストなどで加点。一方日立栃木も15分後飯塚、貴田のロングシュートで連続5得点をあげ追い上げを図るが点差が大きく及ばなかった。

〔日立〕	得		〔オム〕	得
梅津	0	GK	川嶋	0
坂本	0	GK	城下	0
新井	3	FP	西村	1
神長	0	FP	中山	4
柳田	0	FP	武津	0
飯塚	4	FP	古田	1
尾苗	0	FP	比嘉	4
市来	4	FP	橋本	3
石毛	1	FP	斉藤	0
堤	2	FP	吉田	0
小柏	2	FP	石村	1
貴田	1	FP	イエガ	11
(0)	17	PT	(3)	25

〔審・大和、中園〕

第6週第1日（2月22日）
批把島体育館

大崎電気32 〔16―9 / 16―11〕 20大和銀行

〔戦評〕ゲーム開始から大崎電気は梅原、尹を中心としたロング、またポストがうまくからみ、次々と加点していく。一方の大和銀行は、大崎の厚いディフェンスをなかなか崩せず、13分、小池が初得点。その後少しずつリズムを取り戻した大和は、全員がよく動き反撃するものの差はなかなか縮まらない。
　後半も常に自分たちのペースでゲームを進めた大崎が尹の通算個人得点のリーグ新記録（367点）と合わせて5年連続7回日の優勝を飾った。

〔大崎〕	得		〔大和〕	得
南雲	0	GK	増見	0
宗片	0	GK	上田	0
藤井	2	FP	戸高	0
前川	3	FP	小池	3
梅原	10	FP	伊藤	0
江口	4	FP	日野	1
鷲宮	0	FP	松田	0
野田	4	FP	西口	3
金	0	FP	山尾	3
尹	9	FP	竹田	8
伝法谷	0	FP	木口	2
酒井	0	FP	吉村	0
(3)	32	PT	(4)	20

〔審・岩本、板倉〕

第6週第1日（2月22日）
京都府立体育館

オムロン27 〔17―7 / 10―9〕 16北国銀行

〔戦評〕ディフェンスのカットから橋本の速攻で先制したオムロンがディフェンスのペースをつかみ前半15分までに全員のディフェンスの良さとGK川島の堅守に阻まれ、10―3とオムロンがリード。北国も金のミドル、谷本のポストシュートなどで追いかけるが、比嘉のPT、グデリューのロング、ディフェンスの良さからの速攻と息つく暇もなく着々と加点し前半を10点差をつけて折り返した。
　後半に入ってもオムロンのディフェンスは堅く、3連続速攻で加点する。対する北国もディフェンスの詰めは速くなり、サイドシュート、速攻で追い上げるが、GK川島の堅守にあい、リズムに乗り切れないまま終了。

〔北国〕	得		〔オム〕	得
木戸	0	GK	川嶋	0
岩井	0	GK	城下	0
上田	2	FP	西村	3
矢野	1	FP	中山	4
西川	0	FP	武津	0
松下	0	FP	古田	0
松山	0	FP	比嘉	11
谷本	4	FP	橋本	3
森	1	FP	斉藤	2
金	6	FP	吉田	0
松田	2	FP	石村	0
釣川	0	FP	イエガ	4
(4)	16	PT	(7)	27

〔審・馬場、浜田〕

男子2部

第1週第1日（1月11日）本田技研熊本体育館

トヨタ自動車 31 〔14－6 17－14〕 20 **日鉄建材工業**

〔戦評〕両チームともシュートミスが大変目立つ立ち上がりで、中盤よりペースをつかんだトヨタ自動中が優位に立ち、確実に点を取りリードを広げた。日鉄も上山、阪口で反撃するも散発で追いつかず、後半は雑なプレーが目立ち、ラフな試合に終始した。

得	〔自動車〕		〔日鉄〕	得
0	山本	GK	古里	0
0	富森		田中	0
7	香井	FP	谷内	1
4	川田		至田	0
4	田村		崎迫	0
4	三輪		鹿嶌	1
1	石本		森	0
1	村上		山口	4
3	杉元		上山	3
3	野々		杉本	0
2	光田		阪中	7
2	山ノ内		板井	4
31	(3)	PT	(3)	20

〔審・北島　建岡〕

本田技研熊本 25 〔11－9 14－6〕 15 **豊田自動織機**

〔戦評〕前半、1点を争うシーソーゲームとなったが、残り3分で3連続得点した本田熊本が11－9の2点リードで折り返す。

後半は、着実に得点する本田熊本に対し豊田自動織機は本田の堅いディフェンスを攻めきれず、リードを広げられてしまった。

得	〔熊本〕		〔自織〕	得
0	坂本	GK	柴田	0
0	宮本		中村	0
6	三代	FP	山田	2
1	松村		奥畑	0
0	田中		大澤	4
1	山口		諫山	0
0	川崎		倉田	1
6	田中		小川	5
4	堀内		杉浦	0
4	寺島		山田	1
2	大中		伊藤	0
1	児玉		吉原	2
25	(4)	PT	(1)	15

〔審・池田　田中〕

日本電装 32 〔16－8 16－13〕 21 **トヨタ車体**

〔戦評〕前半はスピードに勝る日本電装が相手ミスにつけ込み着実に加点し、8点差でトヨタ車体をリードして折り返す。

後半も前半と同じ展開で試合が進み、トヨタ車体のシュートミスが目立った試合であった。

得	〔電装〕		〔車体〕	得
0	高橋	GK	宮田	0
0	井上		渡辺	0
10	橋本	FP	野田	0
0	西木戸		君島	6
0	有村		崎野	0
1	久本		河合	5
8	岸田		岡部	5
0	森迫		酒井	1
7	笠		寺沢	0
0	近藤		寺島	2
3	梅井		長野	2
3	難波		川野	0
32	(1)	PT	(1)	21

〔審・切通　大村〕

竹芝精巧 30 〔13－12 17－10〕 22 **大阪ガス**

〔戦評〕前半は竹芝GK桜川、大阪GK福田の両GKの好守により一進一退の好ゲームとなったが、後半に入ると両チームともミスが多くなり、雑な試合展開となる。竹芝・平沼の活躍により逃げ切った。

得	〔竹芝〕		〔大阪〕	得
0	桜川	GK	福田	0
			曽根勝	0
4	中間	FP	奥野	1
11	平沼		加地	4
4	馬場		渋谷	0
1	三本		中村	0
6	今村		長田	5
0	坂元		森島	4
4	川上		浜田	3
0	土肥		向井	5
0	長野		三羽	0
30	(0)	PT	(1)	22

〔審・田中　田中〕

第1週第2日（1月12日）本田技研熊本体育館

トヨタ自動車 34 〔17－8 17－12〕 20 **豊田自動織機**

〔戦評〕前半立ち上がりは、両チームとも動きが固く、シーソーゲームの展開であったが、中盤からトヨタ自動車の動きが次第に良くなり、着々と得点を重ねて、17－8と大きくリードして前半を終了。

後半も常にトヨタ自動車のペースで展開し、大きくリードを奪ったまま勝利を収めた。

得	〔自動車〕		〔自織〕	得
0	山本	GK	柴田	0
0	富森		中村	0
6	香井	FP	山田	1
4	川田		奥畑	0
2	田村		大澤	3
5	三輪		諫山	0
1	石本		倉田	7
4	杉元		小川	3
5	大塚		杉浦	0
2	野々		山田	1
2	光田		伊藤	4
3	山ノ内		吉原	1
34	(2)	PT	(1)	20

〔審・田中　戝満〕

本田技研熊本 28 〔18－8 10－11〕 19 **日鉄建材工業**

〔戦評〕前半立ち上がりより本田熊本の田中、大中の活躍により本田ペースでゲームが流れ、10点のリードを奪って前半を終る。

後半は、日鉄の鹿嶌、阪中の活躍により4連続得点をあげ、日鉄ペースで始まったが、前半のリードを本田が守り逃げ切った。

得	〔熊本〕		〔日鉄〕	得
0	坂本	GK	古里	0
0	宮本		田中	0
1	三代	FP	谷内	1
2	松村		至田	0
0	田中		崎迫	3
0	山口		鹿嶌	6
1	川崎		板井	3
8	田中		森	0
2	堀内		山口	3
4	寺島		上山	1
7	大中		杉本	0
3	児玉		阪中	2
28	(2)	PT	(3)	19

〔審・石原口　渡辺〕

日本電装 24 〔17－3 7－17〕 20 **大阪ガス**

〔戦評〕前半は日本電装GK高橋を中心に固いディフェンスと確実な得点で電装ペースで展開した。

後半は大阪ガスのペースで、速攻、サイドシュートで追い上げたが、前半の点差が大き過ぎて及ばなかった。

得	〔電装〕		〔大阪〕	得
0	高橋	GK	福田	0
0	井上		曽根勝	0
3	橋本	FP	奥野	1
0	西木戸		加地	9
0	有村		渋谷	2
4	久本		中村	0
2	岸田		長田	1
0	森迫		森島	2
4	笠		浜田	3
4	近藤		向井	2
4	梅井		三羽	0
3	難波			
24	(4)	PT	(2)	20

〔審・切通　大村〕

トヨタ車体 27 〔8－12 19－13〕 25 **竹芝精巧**

〔戦評〕前半は竹芝の速攻、ロングシュートが決まり、竹芝のペースで展開した。しかし、後半に入ると竹芝のミスが多くなり、トヨタ車体のペースに移る。車体は速攻、サイドシュートが決まり、残り5分で逆転に成功した。

得	〔車体〕		〔竹芝〕	得
0	宮田	GK	桜川	0
0	渡辺			
1	野田	FP	中間	2
4	君島		平沼	7
0	崎野		馬場	2
3	河合		三本	0
12	岡野		今村	7
0	酒井		坂元	0
0	寺沢		川上	7
0	寺島		土肥	0
7	長野		長野	0
0	川野			
27	(1)	PT	(1)	25

〔審・北島　建岡〕

第2週第1日（1月15日）市川市民体育館

豊田自動織機 30 〔14－12 16－14〕 26 **日鉄建材工業**

〔戦評〕前半の立ち上がり、日鉄は退場者を出し、その間トヨタは4－1と3点差とし、勢いに乗るトヨタは15分までに10－4と点差を広げた。一方日鉄も山口、上山のコンビでディフェンスを崩し、

点を重ね前半を14−12とした。後半は点のとり合いとなる。日鉄は上山のロングを中心に点を重ねるが、ディフェンスに荒さが目立ち、退場2、失格1（後半のみ）を与えられ、苦しい展開になったところを織機はサイド、カットインと多彩な攻めから得点をあげ、粘る日鉄をふり切った。

〔日鉄〕	得		〔自織〕	得
古里	0	GK	柴田	0
田中	0	GK	中村	0
谷内	0	FP	山田	5
至田	0	FP	奥畑	0
崎迫	1	FP	大澤	3
鹿嶌	3	FP	諫山	0
板井	2	FP	倉田	8
森	0	FP	小川	10
山口	6	FP	杉浦	0
上山	10	FP	山田	0
杉本	2	FP	伊藤	3
阪中	2	FP	吉原	1
(1)	26	PT	(5)	30

審・仲田・植村

第3週第3日（1月25日）大阪ガス岩崎体育館

トヨタ自動車 24（13−15、11−9）**24 大阪ガス**

〔戦評〕荒っぽい攻防も24−24の痛み分けとなった。

大阪ガスが加地の活躍などでリードすれば、トヨタ自動車も三輪の強引なシュートなどで追撃する形でゲームが終始した。両チームともにGKがピンチを救う巧プレーを見せ、ゲームを盛り上げた。

トヨタにベンチマナーの退場選手が出たことは残念だったが、試合の流れをうまく利用した大阪ガス、乗り切れなかったトヨタ自動車の感があった。

〔自動車〕	得		〔大阪〕	得
山本	0	GK	福田	0
富森	0	GK	曽根勝	0
香井	5	FP	奥野	2
川田	3	FP	加地	7
田村	0	FP	渋谷	0
三輪	9	FP	中村	0
石本	0	FP	長田	3
村上	0	FP	森島	1
杉元	3	FP	浜田	5
野々	2	FP	向井	6
光田	0	FP	三羽	0
山ノ内	2	FP		
(2)	24	PT	(1)	24

審・大羽・中村

日本電装 29（14−12、15−10）**22 日鉄建材工業**

〔戦評〕電装のスピードが日鉄を制した。立ち上がり、日鉄は攻防のバランスが良く、上山の巧シュートなどで先行したが、電装は持ち前のスピードを生かし、視野の広い攻めで日鉄に乗ずるスキを与えなかった。電装・難波はミドルシュートに時宜を得たものが多く、光った存在であった。

〔日鉄〕	得		〔電装〕	得
古里	0	GK	高橋	0
田中	0	GK	井上	0
谷内	0	FP	橋本	2
至田	0	FP	西木戸	0
崎迫	1	FP	有村	0
鹿嶌	6	FP	久本	4
板井	4	FP	岸田	4
森	0	FP	森迫	0
山口	1	FP	笠	5
上山	4	FP	近藤	0
杉本	4	FP	梅井	8
阪中	2	FP	難波	6
(0)	22	PT	(2)	29

審・吉田・岸本

豊田自動織機 22（13−12、9−8）**20 トヨタ車体**

〔戦評〕トヨタ車体がミス（シュート）により試合巧者、豊田自動織機につけ込まれ、敗れた試合であった。

前半は、両チームともミドルシュートの応戦で互角に経過した。後半に入り、織機は倉田、山田のミドルシュートにポストプレーをからませ、常に試合の主導権を握り、車体にせり勝った試合であった。車体も岡部、酒井の新人コンビとベテラン長野の頑張りで接戦にもち込んだものの、ミスが多く惜しまれる敗戦であった。

〔車体〕	得		〔自織〕	得
宮田	0	GK	柴田	0
渡辺	0	GK	中村	0
野田	2	FP	山田	3
君島	2	FP	奥畑	0
崎野	0	FP	大澤	5
岡部	5	FP	諫山	0
酒井	5	FP	倉田	5
平野	0	FP	小川	3
寺沢	0	FP	杉浦	4
寺島	1	FP	山田	0
長野	4	FP	伊藤	0
川野	1	FP	吉原	2
(1)	20	PT	(2)	22

審・酒井・国府

本田技研熊本 37（17−9、20−11）**20 竹芝精巧**

〔戦評〕前半、本田熊本のミドルシュート、速攻が冴え、竹芝もロング、ミドルシュートで反撃するが前半で試合が決まった。本田では、三代の確実なシュート、大中のミドルシュートが目立った。また、速攻のコンビネーションは練習量の豊富さがうかがえた。竹芝では、平沼のロング、川上のミドル、三本の確実なPTが印象に残った。

〔竹芝〕	得		〔熊本〕	得
桜川	0	GK	坂本	0
		GK	宮本	0
中間	2	FP	三代	9
平沼	5	FP	松村	7
馬場	2	FP	田中	1
三本	4	FP	山口	4
今村	1	FP	川崎	1
坂元	1	FP	田中	4
百合野	0	FP	堀内	0
川上	5	FP	寺島	3
土肥	0	FP	大中	8
長野	0	FP	児玉	1
(2)	20	PT	(1)	37

審・小山・佐路

第3週第4日（1月26日）大阪ガス岩崎体育館

トヨタ自動車 26（17−7、9−8）**15 日本電装**

〔戦評〕スピードを身上とする両チームの対戦だったが、防御力に安定感が見られたトヨタ自動車が電装を一蹴した。

川田を攻防の軸として10分までにトヨタが速攻を武器に7−2と優位に立ち、終盤まで大きな崩れもなく電装をふり切った。

〔電装〕	得		〔自動車〕	得
高橋	0	GK	山本	0
井上	0	GK	富森	0
橋本	1	FP	香井	4
西木戸	0	FP	川田	4
有村	0	FP	田村	0
久本	0	FP	三輪	4
岸田	4	FP	石本	3
森迫	0	FP	村上	0
笠	5	FP	杉元	4
近藤	2	FP	野々	1
梅井	2	FP	光田	0
難波	1	FP	山ノ内	6
(2)	15	PT	(0)	26

審・大羽・中森

竹芝精巧 29（14−12、15−15）**27 豊田自動織機**

〔戦評〕竹芝が巧者ぶりを発揮し織機をふり切った。

立ち上がり、竹芝はコントロールタワー・中間を軸にバランスのとれた攻防で特に20～25分に4連続ゴールを奪い14－7とした時は一方的なゲーム展開を思わせた。
　織機は攻めに波が激しく、前半の終盤から竹芝を追い上げ、後半4分には15－15と並び、45分には逆に2点のアヘッドを奪ったがそこまで。

得	〔竹芝〕		〔自織〕	得
0	桜川	GK	柴田	0
			中村	0
9	中間	FP	山田	2
6	平沼		奥畑	0
4	馬場		大澤	4
1	三本		諫山	0
0	今村		倉田	7
3	坂元		小川	3
0	百合野		杉浦	2
6	川上		山田	0
0	川下		伊藤	1
0	土肥		吉原	8
29	(2)	PT	(0)	27

〔審・吉田 岸本〕

日鉄建材工業 23（13－10, 10－11）21 大阪ガス

〔戦評〕大阪ガスが加地の巧シュートでリードを奪い、上山、山口の日鉄が追うシーソーゲームであった。終盤、大阪ガスは長内の退場が響き、日鉄がディフェンスに落ち着きを見せ、ムードを盛り上げ、逆転で勝利を収めた。
　中盤、試合をリードしていた大阪ガスの速攻など攻撃に雑なところが見られたのが敗因となったようだ。

得	〔日鉄〕		〔大阪〕	得
0	古里	GK	福田	0
0	田中		曽根勝	0
0	谷内	FP	奥野	2
1	至田		加地	9
3	崎迫		渋谷	0
2	鹿嶌		中村	0
2	板井		長田	2
0	森		森島	4
5	山口		浜田	1
9	上山		向井	3
1	杉本		三羽	0
0	阪中			
23	(1)	PT	(4)	21

〔審・小山 佐路〕

第4週第1日（2月1日）日本電装幸田体育館

トヨタ自動車 27（15－11, 12－13）24 竹芝精巧

〔戦評〕前半、トヨタは新人三輪の連続得点により好スタートを切る。一方竹芝は、トヨタの堅い堅いディフェンスに阻まれ、なかなか得点をすることができなかったが、前半10分過ぎよりGK桜川の好守をきっかけに着実に得点を重ね、前半23分に遂にトヨタをとらえ、シーソーゲームの末逆転、13－12で前半を折り返す。
　後半10分、トヨタが再び逆転に成功すると2点のリードを保ちつつ竹芝GK桜川の好守に苦しみながらも辛くも逃げ切った。

得	〔自動車〕		〔竹芝〕	得
0	山本	GK	桜川	0
0	富森			
3	香井	FP	中間	7
6	川田		平沼	6
0	田村		馬場	1
9	三輪		三本	4
0	石本		今村	0
0	村上		坂本	4
5	杉元		百合野	0
2	野々		川上	2
0	光田		土肥	0
2	山ノ内		長野	0
27	(2)	PT	(1)	24

〔審・榊原 坪井〕

豊田自動織機 25（14－12, 11－13）25 大阪ガス

〔戦評〕前半、両チームともディフェンスのイージーミスが目立ったが、スピーディな試合運びとなる。シーソーゲームの末サイドからの攻撃を着実にポイントにつなげていった大阪ガスが2点をリードして前半を終る。
　後半4分に織機が同点に追いつき、その後お互いに退場者を出しながらも一進一退の展開を見せる。終了25秒前に織機・杉浦の速攻で1点をリードするが、終了3秒前に加地のシュートで大阪ガスが追いつき同点のまま終了。

得	〔大阪〕		〔自織〕	得
0	福田	GK	柴田	0
0	富根勝		中村	0
1	奥野	FP	山田	3
8	加地		奥畑	0
0	渋谷		大澤	5
0	中村		諫山	0
1	長田		倉田	6
7	森島		小川	3
3	浜田		杉浦	7
3	向井		渡辺	0
2	加地		山田	0
0	三羽		吉原	1
25	(1)	PT	(0)	25

〔審・松原 河合〕

本田技研熊本 27（18－12, 9－14）26 日本電装

〔戦評〕パワフル本田熊本も電装のプレス気味のディフェンスに今一つ持ち味のダイナミックなシュートが打たせてもらえず、波に乗り切れない。電装はディフェンスからの速攻などで得点、14－9と5点のリードで折り返す。
　後半、追いつ追われつの好ゲームとなるが、本田熊本が徐々に勢いづき、終了1分30秒前に逆転、そのまま逃げ切った。

得	〔熊本〕		〔電装〕	得
0	坂本	GK	高橋	0
0	宮本		井上	0
5	三代	FP	橋本	2
9	松村		西木戸	0
0	田中		有村	0
0	山口		久本	7
0	川崎		岸田	4
4	田中		森迫	0
2	堀内		笠	6
3	寺島		近藤	2
4	大中		梅井	3
0	児玉		難波	2
27	(1)	PT	(6)	26

〔審・岩橋 永田〕

トヨタ車体 35（16－13, 19－11）24 日鉄建材工業

〔戦評〕前半、車体は左腕・河合、スピードプレーヤー・岡部らの活躍によりお家芸の速攻などで着実に得点を重ねる。一方日鉄は、ロングシューター・板井の左45度からのシュートが今一つ枠に入らずオフェンスに決め手を欠く。
　後半、車体はベテラン長野の活躍により点差を広げる。日鉄は鹿島のパワフルシュートも及ばず、35－24で敗れた。

得	〔車体〕		〔日鉄〕	得
0	宮田	GK	古里	0
0	渡辺		田中	0
1	野田	FP	谷内	0
7	君島		至田	0
0	崎野		崎迫	1
5	河合		鹿嶌	6
10	岡部		板井	7
1	酒井		森	0
0	平野		山口	6
3	寺島		上山	0
8	長野		杉本	3
0	川野		阪中	1
35	(4)	PT	(0)	24

〔審・夏目 神谷〕

第4週第2日（2月2日）日本電装幸田体育館

本田技研熊本 36（19－10, 17－12）22 大阪ガス

〔戦評〕前半、大阪ガスのリードオフマン加地を中心に得点を加えるが、本田熊本はセット、速攻などで好スタートを切り、常に大阪ガスをリードする。
　後半10分、本田熊本は勢いに乗り、相手のミスを確実に速攻へとつなげ得点を重ね、控え選手を出す余裕も見られた。一方大阪ガスは、浜田が奮起するが、セットオフェンスでは加地1人に頼ってしまい、十分に攻めきれなかった。

得	〔熊本〕		〔大阪〕	得
0	坂本	GK	福田	0
0	宮本		曽根勝	0
8	三代	FP	奥野	2
1	松村		加地	6
1	田中		渋谷	0
2	山口		中村	2
6	川崎		長田	1
4	田中		森島	2
3	堀内		浜田	3
4	寺島		向井	3
6	大中		加地	3
1	児玉		三羽	0
36	(3)	PT	(1)	22

〔審・夏目 神谷〕

竹芝精巧 34（16－10, 18－7）17 日鉄建材工業

〔戦評〕前半、竹芝は三本、坂元を軸に幅広いオフェンスで日鉄をリードする。一方日鉄は、エース板井、鹿嶌のロングも竹芝GK桜川の好キーピングに阻まれ得点が伸びない。
　後半、日鉄は足の止まっていた

ディフェンスも全員よく動きだしオフェンスにも活気が出てきた。しかし、中盤以降再び動きが止まり、大量リードを奪われて敗れた。

	〔日鉄〕	得	〔竹芝〕	得
GK	古里	0	桜川	0
GK	田中	0		
FP	谷内	0	中間	5
FP	至田	2	平沼	6
FP	崎迫	5	馬場	6
FP	鹿嶌	2	三本	4
FP	板井	3	今村	0
FP	森	0	坂元	4
FP	山口	1	百合野	0
FP	上山	0	川上	5
FP	杉本	0	土肥	3
FP	阪中	4	長野	1
審	浅野・神谷			
PT	(3)	17	(2)	34

トヨタ自動車 32 〔15－8 / 17－13〕 21 トヨタ車体

〔戦評〕前半から車体は持ち前のスピーディなオフェンス展開をしていくが、自動車の厚いディフェンスを攻めあぐむ。自動車はディフェンス、オフェンスともよく足が動き、フローターのパワーシュートを見せつける。車体は、ポストをダブルにしたりと策を講じるが、自動車の堅いディフェンスになかなかリズムに乗り切れず、前半を終る。

後半、自動車は三輪、杉元らのロングで着実に得点を重ねる。車体は後半も速攻にミスが目立ち、最後までペースをつかめなかった。

	〔車体〕	得	〔自動車〕	得
GK	宮田	0	山本	0
GK	渡辺	0	富森	0
FP	野田	1	香井	4
FP	君島	0	川田	4
FP	崎野	0	田村	1
FP	河合	5	三輪	10
FP	岡部	9	石本	3
FP	酒井	3	村上	0
FP	平野	0	杉本	7
FP	寺島	1	野々	0
FP	長野	1	光田	2
FP	川野	1	山ノ内	1
審	木和田・河合			
PT	(4)	21	(1)	32

日本電装 27 〔13－13 / 14－10〕 23 豊田自動織機

〔戦評〕前半、お互いに技を知り尽くしている両者、15分までは一進一退の展開となるが、笠のミドル、GK井上の直接シュートなどで電装が一歩リードを奪う。しかし、織機もGK柴田の好守、ポスト、サイドなどで反撃、13－13に追いついて前半を終える。

後半、織機は大澤のロングで先手をとるがなかなかリードを広げられない。その後一進一退が続いたが、残り6分を切って電装が3点を連取、接戦をものにした。

	〔自織〕	得	〔電装〕	得
GK	柴田	0	高橋	0
GK	中村	0	井上	1
FP	山田	3	橋本	3
FP	奥畑	0	西木戸	0
FP	大澤	5	有村	0
FP	諌山	0	久本	4
FP	倉田	3	岸田	4
FP	小川	5	森迫	0
FP	杉浦	4	笠	3
FP	渡部	0	近藤	6
FP	山田	1	梅井	4
FP	吉原	2	難波	2
審	浅野・神谷			
PT	(1)	23	(4)	27

第5週第1日（2月16日）熊本県立体育館

本田技研熊本 19 〔12－9 / 7－8〕 17 トヨタ車体

〔戦評〕立ち上がり、[illegible]熊本のパスミス、シュートミスによりトヨタ車体がリード。しかし、残り10分から本田が6点を連取して一気に逆転、12－9と3点をリードして前半を終えた。

後半2分、車体がPTを得るが本田GK宮本に阻止され追いつくチャンスを逃す。お互い15分まで点の取り合いとなり一進一退の攻防が続く中、車体の速攻からの得点機を再三GK宮本が好守を見せ車体の反撃の芽をつんだ。

	〔車体〕	得	〔熊本〕	得
GK	宮田	0	坂本	0
GK	渡辺	0	宮本	0
FP	野田	2	矢野	0
FP	君島	2	三代	2
FP	崎野	0	松村	4
FP	河合	5	田中	2
FP	岡部	0	山口	0
FP	酒井	2	川崎	1
FP	平野	0	堀内	1
FP	寺島	2	寺島	7
FP	長野	4	大中	2
FP	川野	0	児玉	0
審	北島・建岡			
PT	(0)	17	(2)	11

第6週第1日（2月22日）京都府立体育館

竹芝精巧 29 〔17－8 / 12－11〕 19 日本電装

〔戦評〕今村、平沼の連取で先制した竹芝がまずペースをつかみ、電装も難波で追いかける展開。先制したものの守りに不安があった竹芝だが、リバウンドのシュートをGK桜川が3連続キープして波に乗り、電装のシュートをよく守った。守りを固めた竹芝はロングだけの単調な攻めにならず、ポスト、サイドでも次々と加点。ミスの目立つ電装に対し9点差をつけて折り返した。

後半に入り、笠を軸とした電装が徐々に差を詰めるが、後半なかばから再スパートを切った竹芝が馬場、平沼の速攻などで突き放し勝利を収めた。

	〔電装〕	得	〔竹芝〕	得
GK	高橋	0	桜川	0
GK	井上	0		
FP	橋本	3	中間	5
FP	西木戸	0	平沼	9
FP	有村	0	馬場	1
FP	久本	3	三本	1
FP	岸田	4	今村	4
FP	森迫	1	坂元	0
FP	笠	4	百合野	0
FP	近藤	3	川上	8
FP	難波	1	土肥	1
FP			長野	0
審	大羽・中森			
PT	(2)	19	(1)	29

第6週第1日（2月22日）東京体育館

大阪ガス 23 〔10－9 / 13－13〕 22 トヨタ車体

〔戦評〕前半は大阪ガスが加地の活躍により常に先行するが、トヨタ車体も岡部を中心によくボール

	〔車体〕	得	〔大阪〕	得
GK	宮田	0	福田	0
GK	渡辺	0	曽根勝	0
FP	野田	2	奥野	3
FP	君島	4	加地	3
FP	河合	6	渋谷	[illegible]
FP	岡部	6	中村	[illegible]
FP	酒井	3	長田	1
FP	平野	0	森島	4
FP	寺沢	0	浜田	2
FP	寺島	0	向井	2
FP	長野	1	加地	7
FP	川野	0	三羽	0
審	後藤・鈴木			
PT	(3)	22	(3)	23

を回し、主導権を渡さずに前半を1点差で折り返した。

後半に入っても一進一退の展開であったが、要所での大阪ガスGK福田の好守によりリードを守り1点差で逃げ切った。

トヨタ自動車 29 〔13―9 / 16―8〕 17 本田技研熊本

〔戦評〕トヨタ自動車は三輪、杉元らがまんべんなく得点するのに対し、本田熊本は松村を中心とした得点が止まり、結局トヨタが4点をリードして折り返した。

後半に入るとトヨタがディフェンスから速攻への切り替えがうまくまわりだし、セット[illegible]ェンスでも二輪が相変らずシュートを決め、29―17という予想外の大差がついた。

得	〔自動車〕		〔熊本〕	得
0	山本	GK	坂本	0
0	富森		宮本	0
2	香井	FP	矢野	0
4	川田		三代	2
0	田村		松村	4
11	三輪		田中	0
1	石本	審 小山・島田	山口	0
1	村上		田中	3
5	杉元		堀内	0
1	野々田		寺島	4
0	光田		大中	3
4	山ノ内		児玉	1
29	(6)	PT	(0)	17

女子2部

第1週第1日（1月11日）相模原市総合体育館

ブラザー工業 23 〔10―11 / 13―8〕 19 JUKI

〔戦評〕立ち上がりからGK久保の好守から速攻へ展開したJUKIが終始リード、20分で10―4と6点差まで広げた。しかし、シュート力に勝るブラザーはここから猛反撃を開始、後半6分には14―11と逆に3点をリード、以後も進藤のサイドシュート、甲斐のポストシュートなどで単純ミスを連発するJUKIを突き放した。

上位浮上をかけた両チームだが3位のブラザーが4位のJUKIの浮上に待ったをかけた。

得	〔ブ工〕		〔JUKI〕	得
0	喜多	GK	久保	0
0	西住			
0	末永	FP	永尾	0
2	小栗		許田	0
4	野田		和久田	0
0	藤江		高塚	5
5	甲斐	審 三辻・細井	田中	4
9	進藤		飯田	2
2	畑中		山口	2
0	原		吉田	1
1	三好		武井	0
0	児玉		関	5
23	(1)	PT	(2)	19

第1週第2日（1月12日）大分県立総合体育館

ソニー国分 21 〔10―9 / 11―5〕 14 ムネカタ

〔戦評〕前半、ムネカタが皆川のPTで失敗。一方ソニーは大住のカットインシュートで同点に追いつく。双方決定力を欠き、シュート・パスミスが目立つ展開が続いた。流れが変わったのは、ムネカタの菅野、庄子の退場であった。ここでソニーは藤元、大住のシュートで差を広げていく。しかし、退場が解けた後ソニーは攻めあぐみ、ムネカタ・高橋の3連続得点GK山影の好守で差を縮め逆転する。ソニーも頑張り、安山のサイドシュート、速攻で前半を10―9と1点リードする。

後半開始早々、ソニー・永尾の退場でムネカタはすぐに同点に追いつくが、ソニーのプレスディフェンスにロングシュートを封じられ、逆に速攻、カットインシュートを許し、じわじわと差を広げられてしまった。

得	〔ソニー〕		〔ムネ〕	得
0	古賀	GK	山影	0
			山崎	0
2	藤元	FP	高橋	4
3	永尾		皆川	5
1	平山		上遠野	3
4	安山		菅野	1
4	林	審 石田・徳重	遠藤	0
7	大住		庄子	0
0	飯		村上	0
0	桑谷		吾妻	1
0	荒木		遠藤	0
0	徳光		藤根	0
21	(1)	PT	(1)	14

第2週第1日（1月19日）神戸中央体育館

ジャスコ 25 〔12―11 / 13―14〕 25 ソニー国分

〔戦評〕立ち上がりから両チームともカット速攻と加点したが、ジャスコは林[illegible]ドルシュートが冴え、12―11の1点差で前半をリードした。

後半もシーソーゲームの展開となり、最後まで目の離せない好ゲームとなり引き分けた。

得	〔ジャス〕		〔ソニー〕	得
0	小林	GK	古賀	0
0	長谷川			
0	今井	FP	藤元	6
1	東出		永尾	2
3	勝島		平山	0
2	山田		安山	3
2	川井	審 酒井・国府	桑原	0
1	飯田		林	6
0	成澤		大住	5
6	土師		飯	0
4	金		桑谷	3
6	林		荒木	0
25	(5)	PT	(2)	25

第3週第2日（1月22日）東京体育館

JUKI 31 〔13―5 / 18―7〕 12 ムネカタ

〔戦評〕立ち上がりから両チームともミスが多く、なかなか得点が伸びなかったが、ややシュート力に勝るJUKIがパスカットから速攻やPTなどで抜け出した。ム

得	〔JUKI〕		〔ムネ〕	得
0	久保	GK	山影	0
			山崎	0
6	永尾	FP	高橋	4
4	許田		皆川	3
1	和久田		上遠野	0
4	高塚		菅野	0
6	田中	審 寿川・稲村	桜井	0
4	飯田		遠藤	0
1	山口		庄子	4
0	吉田		村上	1
1	武井		吾妻	0
4	関		藤根	0
31	(4)	PT	(1)	12

ネカタはシュートまでパスが続かず、JUKIのディフェンスとGK久保の堅守に阻まれ、前半は13－5とJUKIがリードした。

後半、出だしからペースをつかんだJUKIが相手ミスにつけ込み、PTを含む7連続得点などで一気に勝負をつけた。

第3週第4日（1月26日）
栃木市総合体育館

ブラザー工業 23（12－10 / 11－5）15 ムネカタ

〔戦評〕前半立ち上がり1分、ムネカタ・吾妻が先制する。ブラザーも4分にようやく小栗のシュートで追いつき、以後一進一退の互角の展開となる。終盤連続得点をあげたブラザーが12－10と2点をリードして折り返す。

後半、互角の立ち上がりを見せたものの、中盤からムネカタの攻撃が単調となったところをブラザーに連続して得点を許し、リードを広げられてしまった。

得	〔ブ工〕		〔ムネ〕	得
0	喜多	GK	山影	0
0	西住		山崎	0
0	末永	FP	高橋	0
2	小栗		皆川	4
5	野田		上遠野	5
4	藤江	〔審・小西 滝口〕	菅野	0
5	甲斐		桜井	3
6	進藤		遠藤	0
0	高木		庄子	1
0	畑中		村上	0
1	三好		吾妻	1
0	児玉		藤根	1
23	(3)	PT	(1)	15

第4週第1日（2月1日）
国分市総合体育館

ブラザー工業 18（8－7 / 10－8）15 ソニー国分

〔戦評〕前半開始10秒、安山のサイドシュートで先制、4分には3－0とソニーがリードするが、13－3と逆転。その後は一進一退となり、8－7とブラザーの1点リードで前半を終了。

後半10分、ブラザー・藤江の速攻で11－8と3点リード。ソニーもロングシュートなどで追い上げるがなかなか点差は縮まらずに終了。ソニーの再三のノーマークシュートを好守したブラザーGK西住の活躍が光った。

得	〔ブ工〕		〔ソニー〕	得
0	喜多	GK	古賀	0
0	西住			
0	荒木	FP	藤元	5
1	末永		永尾	2
4	小栗		平山	0
3	野田	〔審・黒木 中川〕	安山	3
1	藤江		林	1
2	甲斐		大住	3
3	進藤		飯	0
0	高木		桑谷	1
3	畑中		荒木	0
1	三好		徳光	0
18	(1)	PT	(0)	15

第4週第2日（2月2日）
広島市東区スポーツセンター

ジャスコ 29（14－9 / 15－8）17 JUKI

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームとも動きが固く、ミ[illegible]連発となったが、それにうまく乗じたジャスコがリードし、一時は6点差まで広げた。なかば過ぎから逆にJUKIの動きが良くなり、追い上げを見せ2点差まで詰め寄ったが、結局14－9として前半を終えた。

後半に入ってミスはいくぶん減ったが、ペースはあまり変わらず、ジャスコは相手ミスをからめた多彩な攻めで得点を重ねた。JUKIも必死で食い下がったが、波に乗り切れずじわじわと点差を広げられ、最終的には29－17という大差で終了した。

得	〔ジャス〕		〔JUKI〕	得
0	小林	GK	久保	0
0	長谷川		山田	0
3	今井	FP	永尾	3
6	東出		許田	3
3	勝島		和久田	3
5	稲田	〔審・池田 久保〕	高塚	3
0	山田		田中	0
2	川井		飯田	5
1	飯田		山口	0
0	徳永		吉田	0
7	土師		武井	0
2	林		関	0
29	(2)	PT	(0)	17

第5週第1日（2月15日）
鈴鹿市立体育館

ジャスコ 32（17－6 / 15－7）13 ムネカタ

〔戦評〕スタート直後からジャスコは東出のシュートなどで7分過ぎまで4－0で、ムネカタの初得点は7分30秒、皆川のシュートと立ち上がりが悪かった。ムネカタは攻防2人のチェンジで戦うが、戻りの遅さとポストの守りの悪さが随所に出て、時間の経過とともに点差は開いていった。

得	〔ジャス〕		〔ムネ〕	得
0	小林	GK	山影	0
0	藤原		山崎	0
8	東出	FP	高橋	0
4	勝島		皆川	7
2	稲田		上遠野	1
5	山田	〔審・川合 工藤〕	菅野	0
4	川井		桜井	3
0	成澤		遠藤	0
1	徳永		庄子	1
5	東		村上	0
1	岩瀬		吾妻	0
2	林		藤根	1
32	(4)	PT	(3)	13

第6週第1日（2月22日）
枇杷島スポーツセンター

ジャスコ 19（9－8 / 10－11）19 ブラザー工業

〔戦評〕立ち上がりから両チームともにミスが目立ちなかなか得点チャンスが生まれない。ジャスコは中盤から速攻を主体とした攻撃で主導権を握ろうとするが、ブラザーも野田のカットイン、負傷をおして出場した荒木のロングで反撃。前半をジャスコの1点リードで折り返す。

後半に入っても一進一退の展開となったが、この試合に勝つか引き分ければ2位を確保できるブラザーは一時3点までリードを広げる。粘るジャスコも林の活躍で得点、結局19－19でゲーム終了。

得	〔ジャス〕		〔ブ工〕	得
0	小林	GK	喜多	0
0	長谷川		西住	0
4	今井	FP	荒木	5
0	東出		末永	0
3	勝島		小栗	2
[illegible]	稲田	〔審・清水 内藤〕	野田	4
2	山田		藤江	2
3	川井		甲斐	1
1	成澤		進藤	3
0	徳永		高木	0
0	東		畑中	1
6	林		三好	1
19	(3)	PT	(1)	19

第6週第2日（2月23日）
東京体育館

ソニー国分 19（8－9 / 11－8）17 JUKI

〔戦評〕JUKIが許田のカットインで先制。永尾のロング、関の速攻で加点し3－0とリードする。しかし、ソニーも相手のミスから速攻を重ね7分に3－3の同点に追いつく。その後互角の展開でJUKIの1点リードで前半を終える。

後半開始早々、ソニーが追いつく。その後再び一進一退の展開が続いたが、24分にソニーが16－15と逆転に成功、JUKIもいったんは追いついたが、ソニーは藤元の速攻、林のポストシュートで突き放し勝利を収めた。

得	〔ソニー〕		〔JUKI〕	得
0	古賀	GK	久保	0
			山田	0
4	藤元	FP	永尾	3
2	永尾		許田	5
2	平山		和久田	0
4	安山	〔審・阿部 安食〕	高塚	1
6	林		田中	3
1	大住		飯田	2
0	飯		山口	1
0	桑谷		吉田	0
0	荒木		武井	0
0	徳光		関	2
19	(0)	PT	(2)	17

各地の大会結果

東北

全国高校選抜青森県2次予選
（1月11、12日／野辺地町立体育館）

〈男子〉
▼リーグ戦
野辺地 18－18 青森南
青森商 41－4 三本木
野辺地 28－1 三本木
青森商 28－11 青森南
青森南 19－10 三本木
青森商 23－14 野辺地
（順位）①青森商②野辺地③青森南④三本木

〈女子〉
▼リーグ戦
今別 16－14 青森商
青森中央 24－4 青森東
今別 27－5 青森東
青森中央 27－10 青森東
青森商 22－6 青森東
青森中央 25－11 今別
（順位）①青森中央②今別③青森商④青森東

関東

群馬県高校新人大会
（12月23、24日）

〈男子〉
▼Aリーグ
（順位）①富岡②高崎東③桐生工④前橋育英
▼Bリーグ
（順位）①下仁田②玉村③桐生④高崎工
▼Cリーグ
（順位）①吉井②富岡実③藤岡④前橋商
▼Dリーグ
（順位）①前橋②藤岡工③大田市商
▼決勝1位リーグ
富岡 26－9 下仁田
吉井 38－16 前橋
富岡 36－5 前橋
吉井 25－17 下仁田
富岡 23－10 吉井
下仁田 25－14 前橋
▼2位リーグ
高崎東 21－8 玉村
富岡実 37－7 藤岡工
高崎東 28－12 藤岡工
富岡実 35－17 玉村
富岡実 25－16 高崎東
玉村 21－20 藤岡工
（順位）①富岡②吉井③下仁田④前橋

〈女子〉
▼Aリーグ
（順位）①桐生西②桐生女③下仁田④前橋商
▼Bリーグ
（順位）①吉井②高崎東③富岡実④高崎市女
▼Cリーグ
（順位）①群女附②太田市商③高崎女
▼決勝1位リーグ
吉井 15－9 桐生西
群女附 13－8 吉井
群女附 30－14 桐生西
▼2位リーグ
桐生女 14－5 高崎東
高崎東 9－9 太田商
太田商 30－17 桐生女
（順位）①群女附②吉井③桐生西

東海

岐阜県高校新人大会
（12月25、26日／岐阜県民体育館ほか）

〈男子〉
▼1回戦
可児 17－1 岐阜北
海津 16－9 各務原東
岐阜西工 18－4 中京商
大垣工 15－14 各務原東
県岐商 27－10 斐太
大垣南 12－2 岐山
▼2回戦
岐阜東 18－10 可児
岐阜西工 29－13 海津
県岐商 24－18 大垣工
市岐商 10－9 大垣南
▼準決勝
岐阜西工 8－5 岐阜東
市岐商 19－8 県岐商
▼3位決定戦
県岐商 12－11 岐阜東
▼決勝
市岐商 13（5－5、8－5）10 岐阜西工

〈女子〉
▼1回戦
益田 7－5 大垣女子
高山 17－5 各務原西
海津 12－11 加納
瑞浪 15－6 郡上
▼2回戦
養老女商 25－5 益田
高山 15－6 羽島北
県岐商 27－14 海津
富田女子 21－8 瑞浪
▼準決勝
養老女商 12－4 高山
富田女子 16－4 県岐商
▼3位決定戦
県岐商 10－5 高山
▼決勝
養老女商 17（4－3、9－10、3－0、1－0）13 富田女子

近畿

滋賀県社会人大会
（11月17日／　山女子高）

〈男子〉
▼1回戦
滋賀ハンダース 24－10 守山クラブ
彦根クラブ 12－0 京セラ
▼決勝
彦根クラブ 21－10 滋賀ハンダース

中国

全国高校選抜山口県予選

（12月26、27日／下関市体育館ほか）

〈男子〉
▼1回戦
防府西 14－12 下関第一
徳山 30－15 早鞆
徳山工 24－12 田部
岩国 17－13 徳山商
西京 30－11 聖光
下関工 19－8 野田学園
下関西 19－15 山口
華陵 24－18 防府商
▼2回戦
岩国工 29－7 防府西
徳山 41－8 南陽工
下関中工 30－10 徳山工
高水 21－7 岩国
岩陽 42－8 西京
下関工 25－6 宇部工
下関西 16－12 下松
下松工 40－11 華陵
▼3回戦
岩国工 16－13 徳山
高水 17－14 下関中工
岩陽 44－3 下関工
▼準決勝
下松工 31－7 下関西
高水 14－13 岩国工
下松工 24－14 岩陽
▼決勝
下松工 19（10－6、9－5）11 高水

〈女子〉
▼1回戦
華陵 29－1 防府西
山口中央 14－8 徳山工
岩国 8－7 西京
高水 24－2 長府
岩国商 12－0 新南陽
熊毛北 39－7 響
徳山 21－7 防府商
徳山商 34－18 岩陽
▼2回戦
華陵 33－8 山口中央
高水 36－5 岩国
岩国商 22－15 熊毛北
徳山商 24－11 徳山
▼準決勝
華陵 11－8 高水
岩国商 24－17 徳山商
▼決勝
岩国商 18（9－4、9－4）8 華陵

四国

愛媛県高校1年生大会

（12月21、22日／松山市総合コミュニティーセンター）

〈男子〉
▼1回戦
新田 18－6 今治工
松山北 17－16 宇和南
新居浜工 22－9 松山東
今治西 22－20 松山工
▼準決勝
新田 14－13 松山北
新居浜工 19－15 今治西
▼決勝
新居浜工 18（11－8、7－9）17 新田

〈女子〉
新居浜商 14－10 今治東
松山北 17－14 今治北
松山西 15－11 今治西
新居浜東 22－13 松山中央
▼準決勝
松山北 15－11 新居浜商
新居浜東 12－10 松山西
▼決勝
松山北 20（9－4、11－7）11 新居浜東

九州

福岡県高校新人大会

（12月25、26日／北九州市総合体育館）

〈男子〉
▼1回戦
久工大附 15－9 新宮
春日 16－10 香椎
小倉工 17－14 福岡
泰星 25－3 日新館
若松 14－8 筑紫丘
三池 1－15 早良
武蔵台 14－9 博多工
九州産業 24－2 小倉西
▼2回戦
久工大附 21－3 春日
泰星 27－12 小倉工
若松 22－11 三池
九州産業 24－9 武蔵台
▼準決勝
久工大附 28－10 泰星
九州産業 23－10 若松
▼3位決定戦
泰星 26－19 若松
▼決勝
久工大附 11（5－4、6－5）9 九州産業

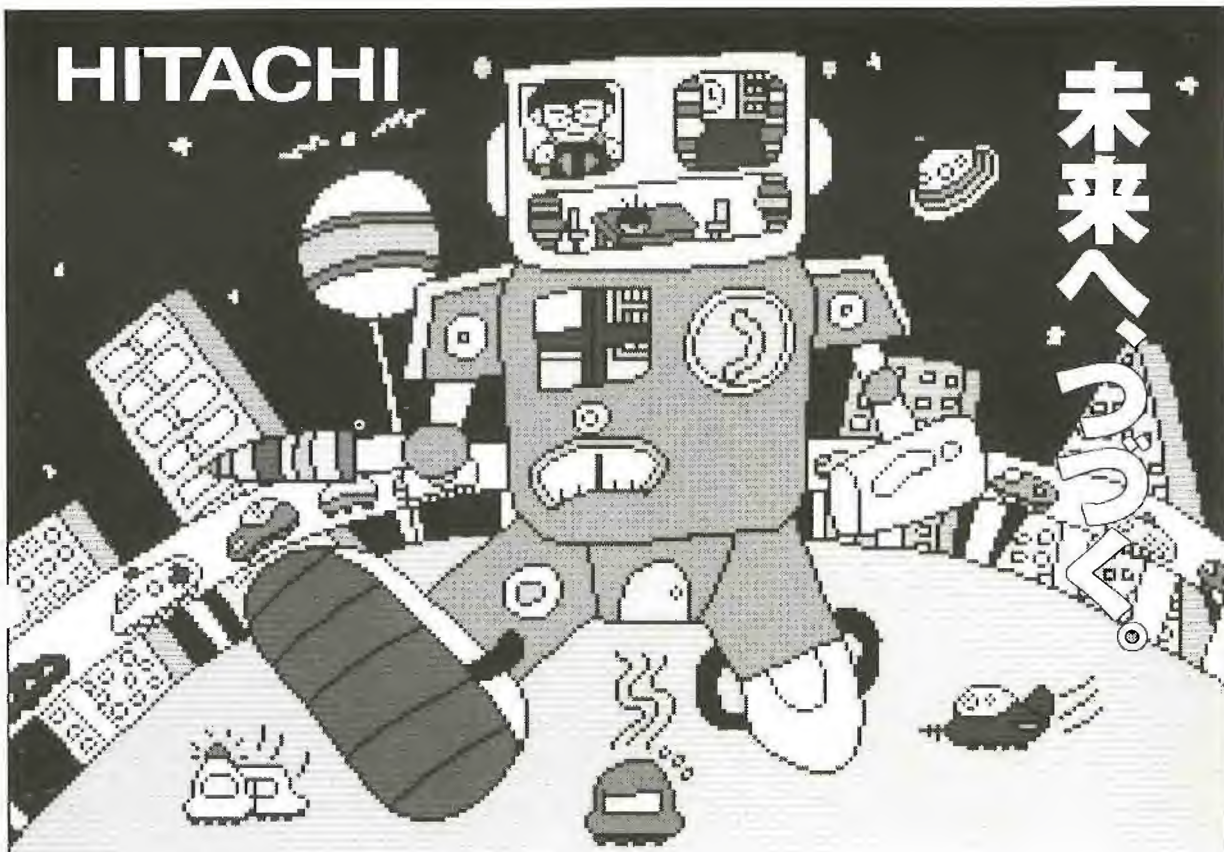
〈女子〉
▼1回戦
春日 12－8 新宮
福岡南女 14－7 宗像
福岡女商 15－8 須恵
福岡 12－7 三井
▼2回戦
九州女 18－5 春日
福岡南女 10－7 浮羽
福岡女商 18－3 小倉商
福岡 9－8 筑紫女
▼準決勝
九州女 22－8 福岡南女
福岡女商 11－7 福岡
▼3位決定戦
福岡 16－11 福岡南女
▼決勝
九州女 22（11－1、11－1）2 福岡女商

日本ハンドボール協会
平成４年度(1992年) 事業日程表(案)

※日付の(　)内は予定

	全国大会	主要国内大会	国際交流(大会・遠征)
'92/4			
5	第33回全日本実業団選手権 (男子)5/8～10 名古屋 (女子)5/8～10 大阪		男・Ｎフランスカップ遠征 5/10～5/30 フランス 男・Ｊアメリカンカップ遠征 5/10～5/30 アメリカ
6	第17回日本リーグ前期 6/6～7/12 全国各地		
7	第12回全国クラブ選手権大会 7/25～7/27 富山	第43回五大都市体育大会 7/10～7/12 名古屋	第25回オリンピック競技会 7/25～8/9 バルセロナ
8	第５回全国小学生大会 8/上　京都 第21回全国中学校大会 8/19～8/22 福井 第43回全日本高校選手権 8/4～8/10 宮崎 第19回全国高専選手権 8/22～8/23 東京 第35回全日本教職員選手権 8/9～8/13 高松	東日本学生選手権 8/15～8/19 千葉 西日本学生選手権 8/12～8/16 大阪 国体ブロック大会 ９ブロック 各地	日韓ジュニア交流(高校生) (8/24～8/30) 韓国光州 第３回男・Ｊアジア選手権 (8/20～9/5の間未定) 第２回女・Ｊアジア選手権 (8／20～9/5の間未定)
9			フランス イブリチーム来日(予定)
10	第47回国民体育大会 10/4～10/9 山形		東アジア ５カ国対抗 上海
11	第35回全日本学生選手権 11/上 愛媛		女子世界選手権予選 (11/21～12/15の間未定)
12	第44回全日本総合選手権 12/10～12/13 東京		第12回世界学生選手権大会 12/13～12/22 ペトルスブルグ
'93/1	第17回日本リーグ(後期) 1/15～2/28 全国各地		
2		第24回全日本実業団男子トーナメント 2/11～2/13 大阪 第３回実業団女子予選会 2/20～2/21 岐阜	全日本実業団日韓交流　関東地区 (東日本選抜)
3	第17回日本リーグ・プレーオフ 3/6～3/7 東京 平成４年度全国高校選抜 3/24～3/28 名古屋		第13回男子世界選手権 (3/10～3/21の間未定) スウェーデン

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二一八号
昭和四十年六月七日第三種郵便物認可 平成四年三月二十六日印刷 平成四年四月一日発行



東京都渋谷区神[illegible]一—一
電話 代表（418）二三六一
振替 東京 六—五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光

定価三百五拾円（年間購読料 三千三百円）